三国小学校遺跡５

－福岡県小郡市力武所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第３１１集

２０１７

小郡市教育委員会

<序　文>

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベットタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進行しつつあります。

今回ここに報告いたします「三国小学校遺跡５」は、校舎新設に伴い小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、三国丘陵から南側へとなだらかに延びる沖積地上に築かれています。三国小学校遺跡を含む周辺地域では、弥生時代の遺跡が数多く発見されてきており、小郡市の歴史を復元するにあたり、大きな成果となっております。今回の調査では、弥生時代の遺物は包含層等で散見されたのみであり、遺構としては検出できなかったものの、江戸時代に推定される炉跡を含む集落跡を検出しています。平成２年度に実施された三国小学校遺跡３次調査において江戸時代の遺構・遺物が多数検出されており、また、本遺跡から東側へ約 200 mのところには、1678 年に薩摩街道が通るまで参勤交代道であった旧筑前街道が通っており、当時の人々の暮らしを復元する上で大きな成果となることが期待されます。

最後になりましたが、調査にご理解とご協力をいただいた小郡市立三国小学校の皆様、周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 29 年３月 31 日
小郡市教育委員会
教育長　清武　　輝

<例　言>

１、本書は、小郡市立三国小学校における学校校舎新築事業に伴って、小郡市教育委員会が平成 27 年度に発掘調査を行った三国小学校遺跡５の埋蔵文化財発掘調査の記録である。

２、遺構の実測、遺構の写真撮影は西江幸子が実施した。

３、遺物の実測は西江、製図は久住愛子、洗浄・復元には、佐々木智子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、図面作成に宮崎美穂子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。

４、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。

５、本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T．P.）を基準としている。

６、本書で用いている略号は以下のとおりである。

土坑：SK　　溝：SD　　ピット：P　　掘立柱建物：SB

７、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。

８、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第１章　調査の経過と組織…… 1
　　１．調査の経緯
　　２．調査の経過
　　３．調査の体制
第２章　位置と環境…… 2
第３章　遺跡の概要…… 3
第４章　遺構と遺物…… 3
　　１．土坑
　　２．掘立柱建物
　　３．溝
　　４．竪穴状遺構
　　５．ピット
　　６．調査区西側包含層
第５章　まとめ…… 30
　　１．三国小学校遺跡５の遺構の時期とその変遷について
　　２．９号土坑の石組み炉について

挿図目次

第１図　三国小学校遺跡５調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）
第２図　三国小学校遺跡５周辺遺跡分布図（Ｓ＝1/25,000）
第３図　三国小学校遺跡５遺構配置図（Ｓ＝1/100）
第４図　１号・２号・14 号土坑遺構実測図（Ｓ＝1/40）
第５図　３号・６号土坑遺構実測図（Ｓ＝1/40）
第６図　１号・３号土坑出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）
第７図　７号・12 号土坑遺構実測図（７号土坑：Ｓ＝1/60、12 号土坑：Ｓ＝1/40）
第８図　６号・７号土坑出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）
第９図　９号土坑遺構実測図（Ｓ＝1/40）
第 10 図　９号土坑出土遺物実測図①（Ｓ＝1/4）
第 11 図　９号土坑出土遺物実測図②（9：Ｓ＝1/2、その他：Ｓ＝1/4）
第 12 図　９号土坑石組み内出土遺物実測図①（Ｓ＝1/4）
第 13 図　９号土坑石組み内出土遺物実測図②（2・3：Ｓ＝1/8、その他：Ｓ＝1/4）
第 14 図　９号土坑石組み内出土遺物実測図③（1・2：Ｓ＝1/4、3・4：Ｓ＝1/2）
第 15 図　５号土坑遺構実測図（Ｓ＝1/60）
第 16 図　５号・７号・９号土坑土層断面実測図（Ｓ＝1/40）
第 17 図　５号土坑出土遺物実測図①（12：Ｓ＝1/2、その他：Ｓ＝1/4）
第 18 図　５号土坑出土遺物実測図②（15：Ｓ＝1/2、その他：Ｓ＝1/4）
第 19 図　１号掘立柱建物遺構実測図（Ｓ＝1/40）
第 20 図　１号・２号・３号・５号溝遺構実測図（Ｓ＝1/40）
第 21 図　１号・２号竪穴状遺構実測図（Ｓ＝1/60）
第 22 図　１号・３号溝、１号・２号竪穴状遺構出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）
第 23 図　ピット、西側調査区包含層出土遺物実測図（2・3・7・8：Ｓ＝1/2、その他：Ｓ＝1/4）
第 24 図　三国小学校遺跡５遺構変遷図（Ｓ＝1/200）
第 25 図　旧筑前街道横隈宿と本調査地の位置関係（Ｓ＝1/2,500）

表目次

三国小学校遺跡５出土遺物観察表

図版目次

図版１　①調査区全景（東側から）
②調査区全景（西側から）
図版２　①１号土坑南壁土層断面・完掘（北側から）
②２号完掘（南側から）
③３号土坑遺物出土状況（北側から）
④３号土坑完掘（北側から）
⑤３号土坑北壁土層断面（南側から）
⑥６号土坑遺物出土状況（東側から）
⑦６号土坑完掘（東側から）
⑧７号土坑完掘（北西側から）
図版３　①７号土坑東西ベルト土層断面西側（北側から）
②７号土坑東西ベルト土層断面東側（北側から）
③７号土坑東西ベルト土層断面西側（南側から）
④７号土坑東西ベルト土層断面東側（南側から）
⑤５号土坑東側遺物出土状況 up（東側から）
⑥５号土坑東側遺物出土状況（東側から）
⑦５号土坑完掘（東側から）
図版４　①９号土坑石組み出土状況（南側から）
②９号土坑石組み出土状況（西側から）
③９号土坑石組み出土状況（北側から）
④９号土坑石組み出土状況（東側から）
⑤９号土坑石組み内鉄器出土状況 up（東側から）
⑥９号土坑石組み下面出土状況（南側から）
⑦９号土坑石組み下面出土状況（西側から）
⑧９号土坑完掘（西側から）
図版５　①９号土坑石組み南北土層断面（西側から）
②９号土坑南北土層断面西側（西側から）
③９号土坑南北土層断面東側（東側から）
④９号土坑東西土層断面（南側から）
⑤14 号土坑土層断面（南側から）
⑥14 号土坑完掘（南側から）
⑦１号溝南壁土層断面（北側から）
⑧２号溝西壁土層断面（東側から）
図版６　①１号溝完掘（北側から）
②３号溝完掘（西側から）
③２号竪穴状遺構完掘（南側から）
④２号溝最東部分完掘（東側から）
⑤３号溝東壁土層断面（西側から）
⑥２号竪穴状遺構南北土層断面（東側から）
⑦１号竪穴状遺構土層断面（東側から）
図版７　①１号竪穴状遺構完掘（北側から）
②１号掘立柱建物完掘（東側から）
③１号掘立柱建物１号柱穴土層断面（南側から）
④１号掘立柱建物１号柱穴完掘（南側から）
⑤１号掘立柱建物２号柱穴土層断面（南側から）
⑥１号掘立柱建物２号柱穴完掘（南側から）
⑦１号掘立柱建物３号柱穴土層断面（南側から）
⑧１号掘立柱建物３号柱穴完掘（南側から）
図版８　出土遺物①
図版９　出土遺物②
図版10　出土遺物③
図版11　出土遺物④
図版12　出土遺物⑤

第１章　調査の経過と組織

１．調査の経緯

三国小学校遺跡５の発掘調査は、小郡市力武 1012 番地における学校校舎新築事業に先立ち、小郡市教育委員会教務課より平成 27 年６月 16 日付で小郡市教育委員会文化財課に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号：15039 号）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成 27 年６月 18 日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約 65 ～ 90cmの深さで遺構が確認されていたことから、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、学校校舎新築箇所の 245㎡について発掘調査を実施することとなった。

２．調査の経過

発掘調査は平成 27 年９月 28 日から同年 11 月 27 日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

９月 28 日　表土剥ぎ開始（～ 30 日）。
10 月　２日　発掘作業員を投入し、遺構検出・掘削開始。
10 月 26 日　小郡市立三国小学校５年生５クラス発掘調査現場見学。
10 月 27 日　小郡市立三国小学校６年生４クラス発掘調査現場見学。
11 月 12 日　全景写真撮影。
11 月 24 日　遺構実測終了。埋め戻し（～ 25 日）。
11 月 27 日　現場引き渡し、調査完了。

以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施。

３．調査の体制

三国小学校遺跡５の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成 27 年度〕

小郡市教育委員会

教育長　清武　輝
教育部長　佐藤　秀行
文化財課長　片岡　宏二
係長　柏原　孝俊
技師　西江　幸子（調査担当）

〔平成 28 年度〕

小郡市教育委員会

教育長　清武　輝
教育部長　山下　博文
文化財課長　片岡　宏二
係長　柏原　孝俊
技師　西江　幸子（整理担当）

整理作業の実施にあたっては、九州歴史資料館の岡寺良氏からご指導いただいた。記して謝意を申し上げる。

〔発掘作業従事者〕

中島司、西初代、福田健一、松永康弘（敬称略）

第１図　三国小学校遺跡５調査地位置図
（S ＝ 1/2,500）

第２章　位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.8m）から延びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

三国小学校遺跡５（１）は、三国丘陵からなだらかに延びる河岸段丘上に立地し、力武・横隈・三沢の三つの大字が接する付近に位置する。

三国小学校遺跡は、これまでに４回調査が行われている。１次・２次調査（１）では、弥生時代中期末～後期の集落が確認され、西側に隣接する三国保育所内遺跡（２）でも弥生時代後期に相当する集落が検出され、舶載の方格規矩鏡の破鏡が出土する事などから三国丘陵上の拠点的な集落の１つであったことが想定されている。第３次調査（１）では、江戸時代の溝を中心に検出されており、屋敷等の区画を成していた可能性が想定されている。第４次調査（１）では、近世～現代にかけての遺構を検出し、攪乱坑からは統制（軍用）陶磁器がまとまって出土している。以下では、三国小学校周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

三国小学校遺跡周辺において最初に人々の活動が確認されたのは、旧石器時代である。三国小学校遺跡１で黒曜石製角錐状石器１点が表土層より出土している。続く縄文時代では、横隈山遺跡４地点（３）で、包含層より前期～後期の土器が数多く出土している。どちらも残念ながら遺構に伴う遺物の出土ではないため、当時の人々の活動の様子がなかなか復元できていない。弥生時代になると数多くの遺跡が築かれる。前期初頭には、力武内畑遺跡（４）において市内で最初に水田が作られた集落が築かれた。その後、三国小学校遺跡・横隈山遺跡・三沢北中尾遺跡（５）と相次いで集落が、横隈上内畑遺跡（６）・横隈狐塚遺跡（７）を中心に墓域が連綿と築かれた。中期末～後期には、三国小学校遺跡・三国保育所内遺跡を中心に遺跡が散見されており、まさに、弥生時代のニュータウンであった。古墳時代は、後期を中心に力武内畑遺跡で集落、横隈上内畑遺跡で墓域、横隈十三塚遺跡（８）で集落と墓域が築かれているが、現在の所、三沢古墳群が築造されている周辺で集落域が検出される傾向が強い。中世～近世にかけては目立った遺跡は確認されていないものの中世から江戸時代初期を中心に人々の往来道であった旧筑前街道（９）が、本遺跡東側約200mのところを通っていることからも、人々の活発な活動が想定される。近代以降に関する遺跡は現時点ではあまり発見されてはいないが、三国小学校遺跡４で発見された統制（軍用）陶磁器は、本市内では初めて確認されたものである。近隣には大刀洗飛行場が所在し、昭和20年３月27日・31日に起こった大刀洗飛行場空襲後には、軍関係者が地域の民家等に移ったという聞き取り調査成果も残っていることから、今後、戦時下の小郡市内の状況を復元する上で大きな成果となり得るだろう。

第２図　三国小学校遺跡５周辺遺跡分布図（S＝1/25,000）

小郡市内において近世の発掘調査事例は少ないが、本調査を含む１つ１つの調査成果の積み重ねが、今後この地における社会像を探求する上で大きな一助となるだろう。

１：三国小学校遺跡１・２・３・４・５
２：三国保育所内遺跡
３：横隈山遺跡４地点
４：力武内畑遺跡
５：三沢北中尾遺跡
６：横隈上内畑遺跡
７：横隈狐塚遺跡
８：横隈十三塚遺跡
９：旧筑前街道

第３章　遺跡の概要

三国小学校遺跡５は、宝満川右岸、小郡市北部の三国丘陵から南へと延びる台地上に位置し、標高は遺構検出面で22.2m前後を図り、現地表面から約45～66cm下る高さで遺構を確認している。三国小学校遺跡の包蔵地内では、これまでに４回発掘調査が行われており、本調査地点は第３次調査区の南隣、第３次調査区の東隣には第４次調査区が実施されたという位置関係にある。層位は、地表面より明黄褐色土の造成土が堆積し、その下より褐灰色土が堆積し、さらにその下より遺構検出面である暗灰黄色ローム層を検出した。

出土遺構は、中世～江戸時代を中心に近代を含むと考えられる土坑（井戸含む）８基、溝４条、炉跡と考えられる石組み遺構１基、竪穴状遺構２基を中心に検出した。また、時期は確定できてはいないが、掘立柱建物１棟を調査区西側において確認している。検出した遺構からは、皿、すり鉢や鍋、石臼など日常的に使用されたと考えられる遺物を発見した。また、ピットより土製の鈴１点が出土している。

三国小学校遺跡５で検出した主な遺構・遺物は以下のとおりである。

●遺構

・土坑(井戸含む)	８基	・溝	４条
・竪穴状遺構	２基	・石組み遺構	１基
・掘立柱建物	１棟		

●遺物

・土師器	・須恵質土器	・磁器	・陶器
・青磁	・白磁	・瓦器	・坩堝
・土鈴	・石臼	・砥石	・台石
・鉄製品（鉄刀等）			

第４章　遺構と遺物

１．土坑

１号土坑（第４図、図版２）

調査区南壁際の東よりで検出した土坑であり、３号溝を切る。平面形は、現状130cm×70cmの半円形状を呈し、深さは最大12cmを測る。

埋土からは、土師器の鍋など中世を主体とする遺物を発見しているが、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第６図、図版８）

１・２は湯釜を模した胴部に耳を貼付けた土師器の耳鍋である。１は、直立気味に伸びる口縁部に、胴部に内外面伴にススが付着している。２は、胴部の耳部のやや下側に突帯１条を貼り付けている。形態的特徴より、16世紀後半に相当すると考えられる。

２号土坑（第４図、図版２）

調査区東壁際で検出した土坑である。平面形は、現状90cm×85cmの円形状を呈し、遺構検出面より約10cm下位でテラス状の高まりをもつ二段掘りの土坑であり、深さは最大38cmを測る。

埋土からは、遺物は検出できなかった。

３号土坑（第５図、図版２）

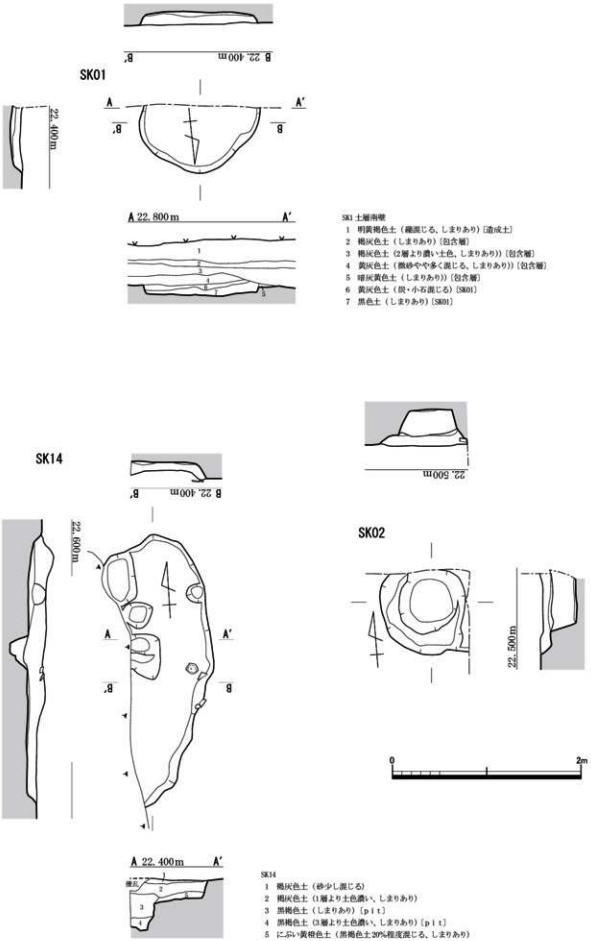
調査区北東隅で検出した土坑であり、一部調査区外へと延びる。平面形は、現状155cm×150cmの隅丸方形状を呈する。南西側に遺構検出面より約16cm下位でテラス状の高まりをもつ二段掘りの土坑であり、深さは最大35cmを測る。３号土坑の地山面よりさらに約７cmの掘り込みが西側で見られるが３号土坑に伴うものかどうかは不明確であった。

埋土からは、遺構検出面より10～25cm下位の空間で、石臼等をまとまって発見した。その他には、土師器の皿や須恵質のすり鉢・鍋等を検出しているが、図化するに至ったものは少ない。

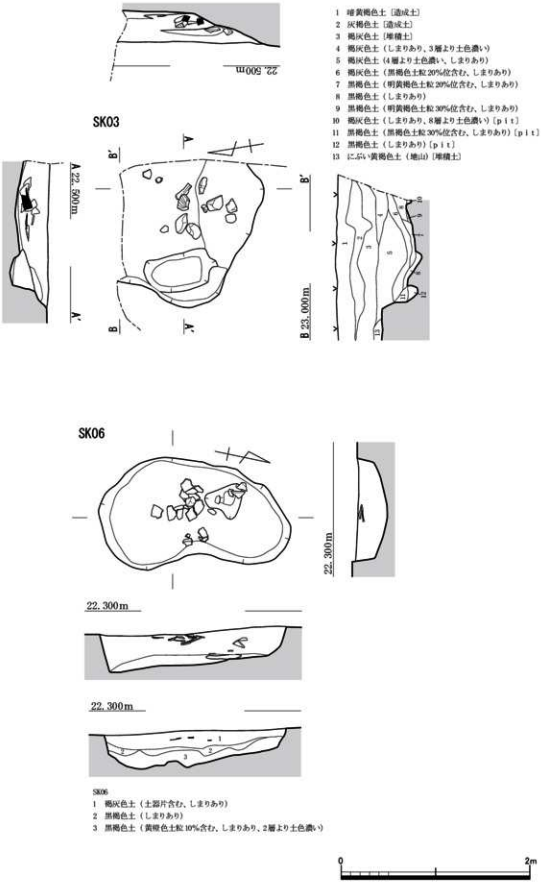
出土遺物（第６図、図版８）

３・４は土師器の皿である。底径は、３が4.0cm、４が3.6cmであり、伴に口縁部は欠損しており、底部は糸切りが施されている。５は須恵質のすり鉢の小片である。口縁端部は外側に少しつまみ出されており、内

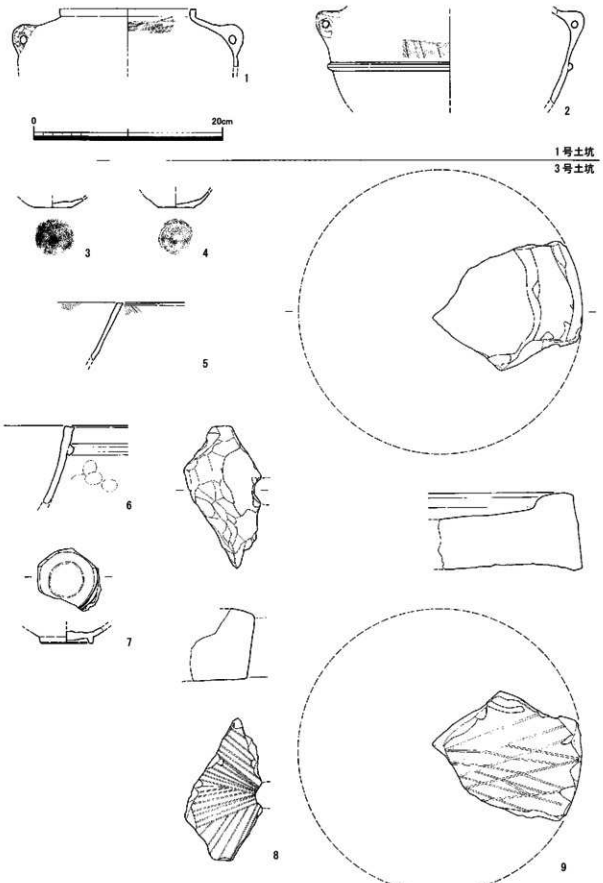
第３図　三国小学校遺跡５遺構配置図（S＝1/100）



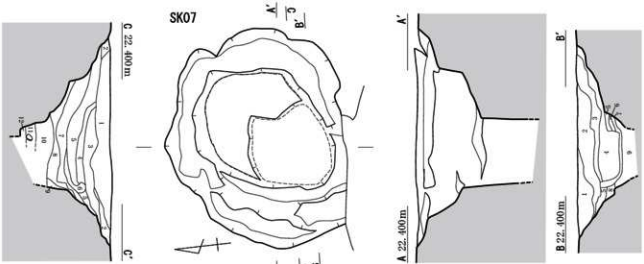
第４図　１号・２号・14号土坑遺構実測図（S＝1/40）

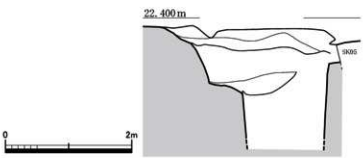


第５図　３号・６号土坑遺構実測図（Ｓ＝1/40）



第6図　1号・3号土坑出土遺物実測図（S＝1/4）



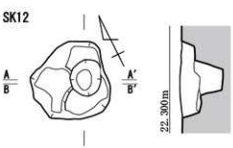


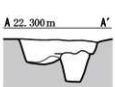
SK07 東西ベルト南側 [B-B']

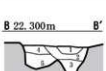
1 灰黄褐色土（シルト、黄橙色土粒 10%位混じる）
2 灰黄褐色土（1層より土色濃い、シルト、黄橙色土粒 10%位混じる）
3 黒褐色土（シルト、黄橙色土粒 10%位混じる）
4 黒褐色土（3層より土色濃い）
5 灰黄褐色土（黄橙色土粒 10%位混じる）
6 黒褐色土（シルト）
7 灰黄褐色土（黄橙色土粒 30%位混じる、4層より土色濃い）
8 黒褐色土（明黄橙色土粒 10%位混じる）
9 黒褐色土（シルト）

SK07 東西ベルト北側 [C-C']

1 灰黄褐色土（シルト）
2 黒褐色土
3 黒褐色土
4 黒褐色土（土色は3層より濃い）
5 黒褐色土（シルト）
6 浅黄橙色土（土粒の塊）
7 黒褐色土（にぶい黄橙色土 20%程度含む）
8 黒褐色土
9 黒褐色土（明黄褐色土粒 10%程度含む）
10 黒褐色土（にぶい黄橙色土粒 10%程度含む）
11 黒褐色土（明黄褐色土粒 10%程度含む、礫含む）
12 黒褐色土（やや粘質）



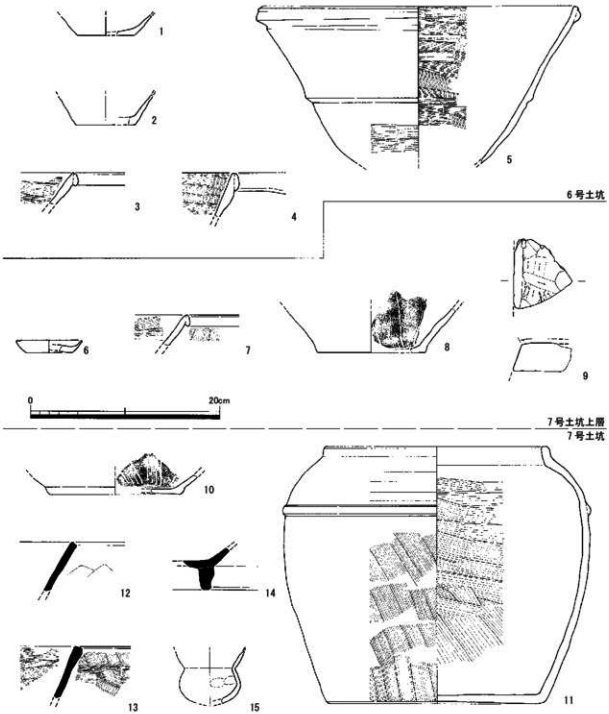




SK12

1 灰黄褐色土（明黄褐色土粒 10%位混じる）
2 黒褐色土（明黄褐色土粒 10%位混じる）
3 黒褐色土（しまりあり、2層より土色濃い）
4 黒褐色土
5 黒褐色土（4層より土色濃い）

第７図　７号・12 号土坑遺構実測図（７号土坑：S＝1/60、12 号土坑：S＝1/40）



第８図　６号・７号土坑出土遺物実測図（S＝1/4）

面に単位不明のすり目が施されている。また、外面上半から内面全面にかけてススが付着している。６は須恵質の鍋であり、口縁端部直下の胴部に突帯が貼付けられている。７は磁器の碗である。内面に蛇の目が施されている。８・９は石臼の細片である。一面は、中心部に向かって溝が刻まれており、反対の面は、端部から内面に向かって一段窪むような形態をしていることから、伴に上臼と想定される。

形態的特徴より、７は近世に比定できることから後世の混入と考えられ、その他の主体は13世紀後半～14世紀前半に相当すると考えられる。

６号土坑（第５図、図版２）

調査区東側の中央よりで検出した土坑である。平面形は、現状205㎝×115㎝の楕円形状を呈し、深さは最大で39㎝を測る。

遺構検出面から下位に約15cmの空間で、土師器等の土器片をまとまって発見した。その他にも埋土中より、土師器片を検出したが、図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第８図、図版８）

１・２は土師器の皿である。底径は、１が6.0cm、２が6.2cmであり、伴に口縁部は欠損しており、底部は糸切りが施されている。３・４・５は土師器の鍋の口縁部片である。口縁端部は全て粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させ、内面にはハケメ調整が施されている。５は、外面胴部に強いナデによる窪みがあることから、羽釜の鍔部分の役割を果たすためにわざと窪ませた可能性が想定される。

形態的特徴より、14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

７号土坑（第７・16図、図版２・３）

調査区東壁際の中央よりで検出した土坑であり、５号土坑と９号土坑に切られ、一部調査区外へ延びる。平面形は、現状345cm×290cmの円形状を呈する。遺構検出面より約18cm下位と約87cm下位でテラス状の高まりをもち、ここより下位では明黄褐色土を含む黒褐色土層と単色の黒褐色土層が互層となっていた。遺構検出面より約178cmを掘ったところで、これまでの埋土の堆積状況と、遺構の形状より井戸の可能性が高いことが判明したことから、掘削を止めた。

埋土からは、第８図11の破片が南北土層ベルト西側すぐの北側すぐの上層においてまとまって出土している。その他、多数の土師器片、石鍋、石臼、砥石、鉄滓等を検出したが、小片のため図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第８図、図版８）

６～９は最上層、10～15は埋土中より出土している。

６は土師器の皿であり、轆轤成形・水挽き技法世により形成されたと想定できる。底部は糸切りが施されている。７は土師器の鍋の口縁部片であり、粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させている。外面胴部にコゲが付着している。８は土師器のすり鉢の底部片であり、内面に３本１単位のすり目が施されている。９は砥石であり、砥面は１面のみ確認している。10は土師器のすり鉢であり、内面に４本１単位のすり目が施されている。11は土師器の甕である。口縁部はやや内傾気味に伸び、胴部上位に突帯を１条貼り付け、平底の底部を呈している。内面には付着物が散見された。12・13は須恵質のすり鉢の口縁部片である。14は須恵質の高台付鉢の高台部分である。15は土師器の坩である。

形態的特徴より、埋土中の遺物は13世紀後半～14世紀前半が主体であり、最上層は14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

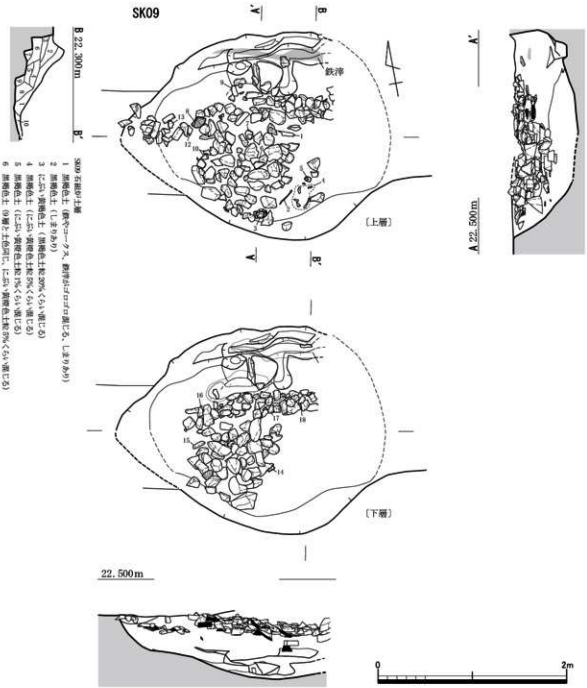
14号土坑（第４図、図版５）

調査区中央の南側よりに位置し、西側を攪乱に切られる。平面形は、現状295cm×85cmの南北方向に長い半楕円形を呈し、深さ最大約19cmを測る。

遺構検出面で土器片を数点発見したが、掘り下げている中で、包含層に伴うものと判明したため、遺構に伴う遺物は検出できなかった。

９号土坑（第９・16図、図版４・５）

調査区の東側よりに位置し、５号土坑と７号土坑を切る。平面形は、７号土坑や５号土坑との切り合いが見極め難く、東側の遺構の輪郭や西側の遺構の輪郭など掘りすぎてしまった部分もあったが、現状170cm×220cmの楕円形状を呈し、深さは最大で約70cmを測る。９号土坑の特徴は、遺構内部の南東側以外の部分にＬ字状に石を組み合わせた層を遺構検出面から下側に約50cmの空間において検出した点にある。この石組みに使われた石材には、砥石や石臼の破片が含まれており、また、石同士の間では、所々で陶磁器も検出している。また、この石組みの層の直下の層である第９図石組み炉土層１層では、鉄滓、鉄製品の細片、焼土、炭がごろごろ混じった層を確認している。そして、この石組みにもたれかかるように鉄製品が出土し、且つ、鉄分を含む土が集中して出土した地帯があり、石組みで囲まれた内側の空間からも鉄製品の細片、焼土、炭がご



第９図　９号土坑遺構実測図（S＝1/40）

遺構図番号	遺物番号	遺構図番号	遺物番号	遺構図番号	遺物番号	遺構図番号	遺物番号
1	14図４	6	12図２	11	13図２	16	14図２
2	14図３	7	12図10	12	12図３	17	12図12
3	12図６	8	12図８・９、13図１	13	12図１	18	13図４
4	12図５	9	13図５	14	12図７	＊13図３は石組み内出土であるが、場所は不明	
5	12図４	10	12図11	15	14図１		

＊第９図９号土坑遺構実測図内に記した番号と第12・13・14図出土遺物実測図に記した遺物との対応表

ろごろ混じっていたことから、この石組みは炉として機能していた可能性が想定される。

埋土からは、土師器、磁器、鉄器、石器を検出しているが、その中には、第10図14・第11図５のように固形物として鉄分が付着したものや、第10図11・13・第11図２・７・第12図10・12のように鉄分が薄く付着したも、第12図２のように被熱痕が確認できるものも散見されており、遺物の面からも炉としての機能が想定できる。

出土遺物（第10・11・12・13・14図、図版９・10・11・12）

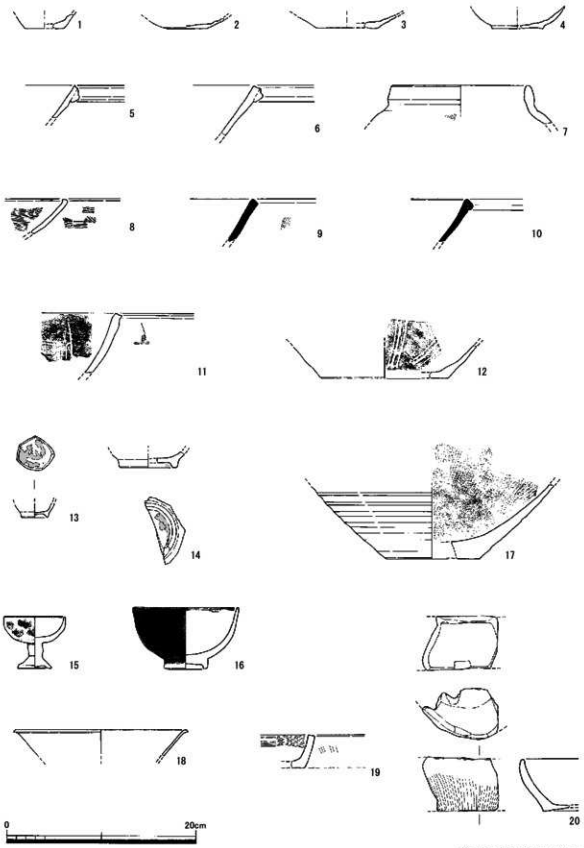
第10図１～20は石組み炉が組まれていた層までの埋土中から、第11図１～３は石組み炉の層直下から、第11図４～９は石組み炉の層よりさらに下から底面までの埋土中から、第12・13・14図は全て石組み炉の石組みの中で検出した。なお、第12・13・14図に掲載した遺物は、出土した地点を図面上に記してある。遺構図と遺物の相互関係については、第９図の表を参照願いたい。以下では、各遺物の概略について記す。

まず、第10図であるが、１～４は土師器の皿であり、底径は4.1～6.4cmであり、全て底部に糸切りが施されている。また、４は外面全面にススが付着している。５～７は土師器の鍋である。５・６は粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させており、鉢に形態が類似する鍋と想定でき、７は口縁部が直立気味に伸びていることから、湯釜を模した鍋と想定できる。８～10は鉢であり、８は土師器、９・10は須恵質土器である。８は外面胴部にコゲが付着し、９は内外面にススが付着している。11・12は土師器のすり鉢である。11は内面に4本1単位のすり目が施されており、外面に鉄分が付着している。12は内面に単位不明のすり目があり、外面全面と内面の一部にススが付着している。13～15は磁器で、13は猪口、14は碗、15は高坏である。このうち、13は内面に薄く鉄分が張り付いており、14は外面高台部の見込みに鉄分が固形状の塊で付着している。16・17は陶器で、16は碗、17はすり鉢であり、内面前面にすり目が施されている。18は白磁の碗の口縁部片である。口縁端部は外側にややつまみ出されている。19・20は土師器の鉢であり、外面に粗いハケメが施され、隅丸方形気味の底部を呈する。19は内面全面と外面口縁部にススが、20は外面にコゲが付着している。

次に第11図である。１は土師器の鉢であり、第10図20と同様の形態を呈し、外面に粗いハケメが施されている。２は須恵質の鉢であり、口縁部は肥厚しながら直線的に伸び、頸部との屈曲部に1条の沈線が施されている。また、内面に若干ではあるが鉄分が薄く付着している。３は土師器の把手である。外面は指押さえ、内面はヘラ削りにより調整が施されている。４は土師器の皿であり、底部は糸切りが施されている。５は須恵質の鉢の口縁部片である。内外面に鉄分が固形状の塊で付着している。６は土師器のすり鉢であり、注ぎ口部を持つ。内面の胴部から底部にかけて格子目状のすり目が施されている。７は瓦器の火鉢であり、外面に刻目突帯が施されている。刻目突帯の直下には薄く鉄分が付着している。８は砥石であり、砥面を４面確認している。９は鉄器である。錆膨れがひどいものの断面より本来の製品部分が円形をしていることが確認できており、L字状にまがっていることから鉄釘と考えられる。

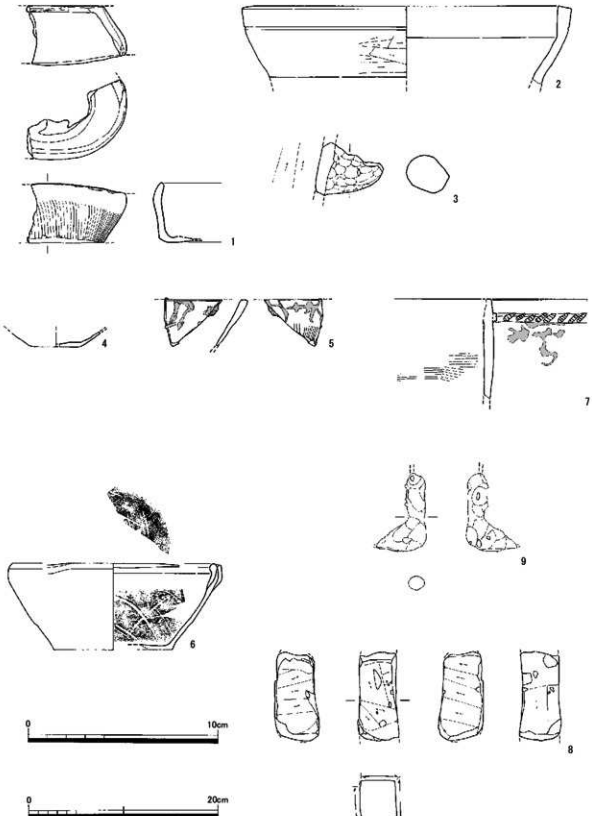
次に第12図である。１・２は鍋である。１は土師器、２は須恵質土器である。１は胴部に突帯を貼り付けており、鍔部分の役割を果たしていた可能性が想定される。外面胴部にススが付着し、被熱痕が残存している。２は内外面にススが付着している。３は土師器の火鉢である。外面に突帯を貼り付け、その直下にスタンプ印を施している。４・５は陶器である。４・５ともに口縁端部を玉縁状に外側へ折り曲げており、口縁端部形態から胴部にかけてのプロポーションを含め非常に類似している。４は内面に単位不明のすり目を確認しているが、５は小片のためすり目を確認できなかったが、ともにすり鉢の可能性が想定される。６～11は磁器である。６～10は碗であり、外面胴部や内外面の見込みに染付が施されている。また、10は内面見込み部分に鉄分が点状に付着している。11は瓶であり、胴部に染付が施されている。12は土製品の破片である。外面全面に鉄分が付着しており、内面にはコゲが部分的に付着し、割れ目の断面にまでコゲが及んでいる。用途として、鋳型や坩堝の可能性が想定できるが、決め手に欠けており、断定はできない。

次に第13図である。１～３は石臼である。一面は、中心部に向かって溝が放射線状に刻まれており、反対の面は、端部から内面に向かって一段窪むような形態をしていることから、上臼と想定される。４・５は細片ではあるが、ともに扁平でコゲやススが付着していることから、鍛冶関連用品として使用された可能性が想定される。



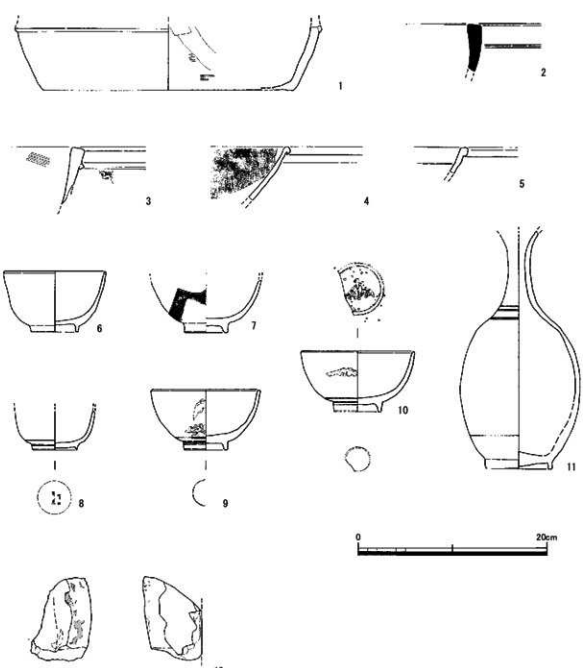
※網掛け部分は鉄分付着箇所

第 10 図　9 号土坑出土遺物実測図①（S＝1/4）



※網掛け部分は鉄分付着箇所

第 11 図　9 号土坑出土遺物実測図②（9：S=1/2、その他：S=1/4）



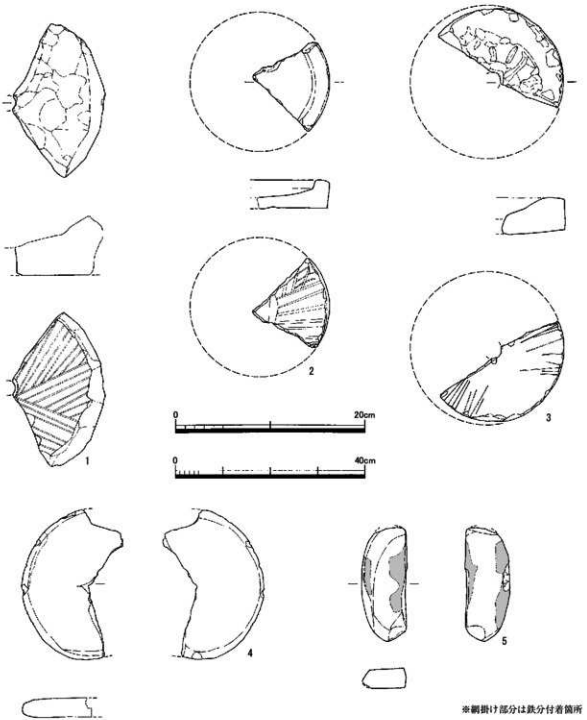
第 12 図　9 号土坑石組み内出土遺物実測図①（S=1/4）

最後に第14図である。1・2は砥石であり、1は砥面を3面、2は砥面を4面確認している。3・4は鉄器である。3は錆膨れが激しいものの断面部分で丸い棒状の鉄を確認していることから棒状製品と考えられる。4も表面の錆膨れが激しいものの形状より刀子と想定される。

以上より、形態的特徴から、一部14世紀後半～15世紀に下りそうなものがあるものの、多くは17世紀後半の近世に比定できると考えられる。

補足（図版10）

石組みで囲まれた範囲内下層部分や、その直下の層である第9図石組み炉土層1層、及び、9号土坑地山面までの埋土には、鉄分や焼土が散見されていた。よって、発掘調査現場より土を持ち帰り、1㎝メッシュ

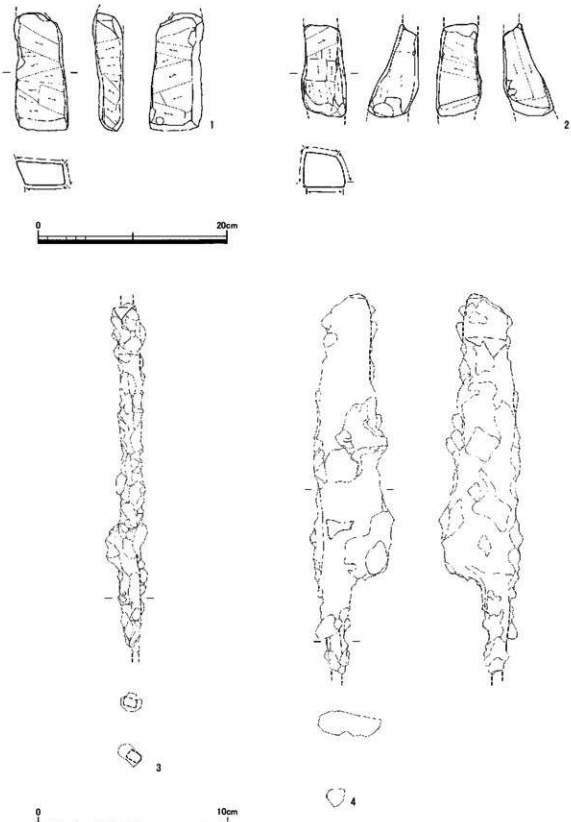


第 13 図　9 号土坑石組み内出土遺物実測図②（2・3：S=1/8、その他：S=1/4）

と 1 ㎜メッシュで土をふるいにかけ、遺物の抽出を行った。その際、鉄分が付着した実測可能な遺物を 2 点検出した。しかし、既に報告書掲載用の遺物の実測・トレースが終了した後であったため、写真（図版10−7・8）のみでの報告となってしまったので、以下で、遺物の特徴について記すこととする。

図版10−8は、須恵質土器の蓋部分である。内面部分に鉄分が部分的に薄く付着している。図版10−7は、土師器のすり鉢の底部直上の胴部片である。内面には、単位不明のすり目が施されているとともに、固形状の塊の鉄分が付着している。

以上より、形態的な特徴から、両者とも14世紀後半〜15世紀に比定できると考えられる。



第 14 図　9 号土坑石組み内出土遺物実測図③（1・2：S=1/4、3・4：S=1/2）

５号土坑（第15・16図、図版３）

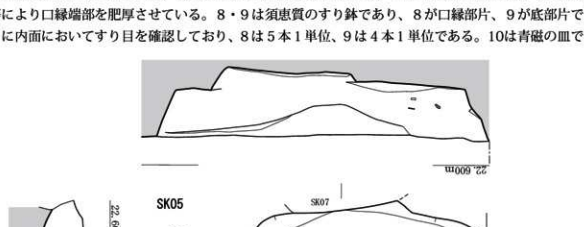
調査区東壁際に位置し、７号土坑を切り、９号土坑に切られる。平面形は、現状530㎝×210㎝の東西方向に細長い隅丸方形状を呈する。床面は、東側・西側ともに遺構検出面より下位に約76㎝のところでテラス状の高まりをもち、９号土坑を検出した部分を中心にさらに下位へと掘り込まれており、深さは最大で107㎝を測る。第15図の土層をみるに、１～６層までは９号土坑等、５号土坑が機能した跡に掘られた掘り込みがみられるものの、７層以下は順堆積をしている。特に、13・14層は、テラス状の高まりからより深く掘り込まれている中央部に向かってレンズ状堆積がなされていることから、５号土坑を何らかの機能として使用しながら徐々に土が堆積していったと考えられる。

埋土からは、東側の遺構検出面より下位に30～70㎝の空間において、土器片をまとまって発見した。その他、磁器、鉄器、石器を検出している。

出土遺物（第17・18図、図版10・12）

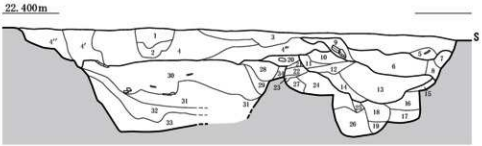
当初、９号土坑に切られている部分から東側と西側は別遺構と想定し掘り下げていたことから、遺物は西側、東側、中央部分という３地点に分けて記すこととする。なお、第17図１～12は西側、第18図１～15は東側、第18図16～20は中央部分から出土した。以下、各出土遺物の概略を記す。

まず、第17図である。１～６は土師器の皿であり、胴部の立ち上がりや底径より、轆轤成形・水挽き技法により形成されたと想定できる。底部は全て糸切りが施されている。７は土師器の鍋である。粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させている。８・９は須恵質のすり鉢であり、８が口縁部片、９が底部片である。ともに内面においてすり目を確認しており、８は５本１単位、９は４本１単位である。10は青磁の皿であり、



第 15 図　５号土坑遺構実測図（Ｓ＝ 1/60）

SK05・SK07・SK09南北土層西側

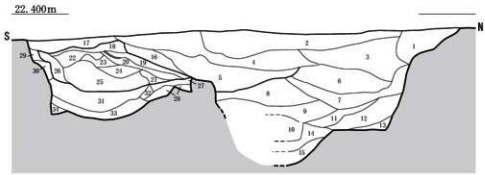


SK05・SK07・SK09南北土層西側

1 灰黄褐色土（明黄褐色土粒10%位含む）
2 縞層
3 灰黄褐色土
4 灰黄褐色土（3層より色濃い）
4′ 黒褐色土
4″ 黒褐色土（明黄褐色土粒10%位含む）
4‴ 黒褐色土（灰黄褐色土、3層より色濃い）
5 黒褐色土
6 にぶい黄橙色土
7 黒褐色土
8 明黄褐色土
9 黒褐色土
10 黒褐色土
11 黒褐色土（鉄分含む）
12 灰黄褐色土（明黄褐色土粒30%位含む）
13 黒褐色土
14 黒褐色土（鉄分含む）
15 黒褐色土
16 灰黄褐色土
17 黒褐色土
18 黒褐色土
19 黒褐色土
20 黒褐色土
21 黒褐色土
22 浅黄橙色土
23 黒褐色土
24 黒褐色土
25 黒褐色土（鉄分含む）
26 黒褐色土（明黄褐色土粒10%位含む）
27 黒褐色土（にぶい黄橙色土粒少し含む）
28 黒褐色土（シルト、浅黄橙色土粒10%位含む）
29 黒褐色土（28層より土色濃い）
30 黒褐色土
31 黒褐色土（土器片含む、茶褐色土粒10%位含む）
32 黒褐色土
33 黒褐色土（明黄褐色土粒30%位混じる）
34 黒褐色土

SK09
SK05
SK05
SK07

SK05・SK07・SK09南北土層東側

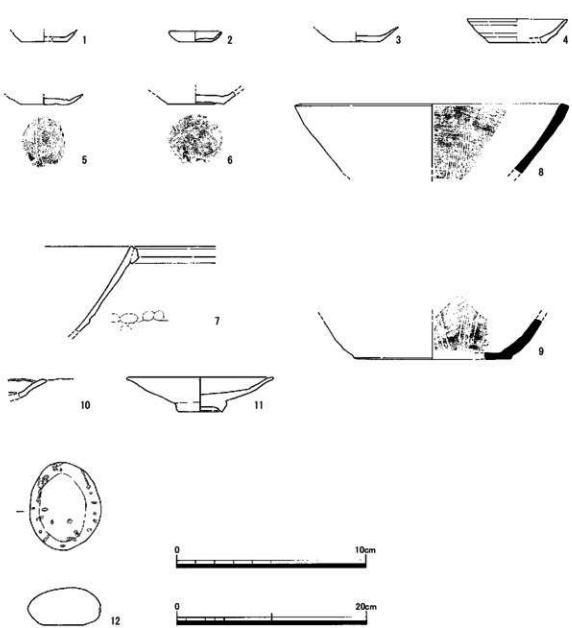


SK05・SK07・SK09南北土層東側

1 黒褐色土
2 灰黄褐色土
3 灰黄褐色土
4 黒褐色土
5 黒褐色土
6 西側の30層と対応
7 西側の31層と対応
8 黒褐色土
9 黒褐色土
10 黒褐色土
11 西側の32層と対応
12 西側の33層と対応
13 浅黄橙色土（掘り過ぎ）
14 黒褐色土（灰黄褐色土粒10%位含む）
15 黒褐色土
16 灰黄褐色土
17 灰黄褐色土
18 黒褐色土
19 黒褐色土
20 浅黄褐色土
21 黒褐色土
22 黒褐色土
23 黒褐色土
24 黒褐色土
25 黒褐色土
26 黒褐色土
27 黒褐色土
28 黒褐色土
29 黒褐色土
30 浅黄橙色土
31 黒褐色土
32 黒褐色土
33 黒褐色土
34 黒褐色土

SK07
SK07
SK09
SK05

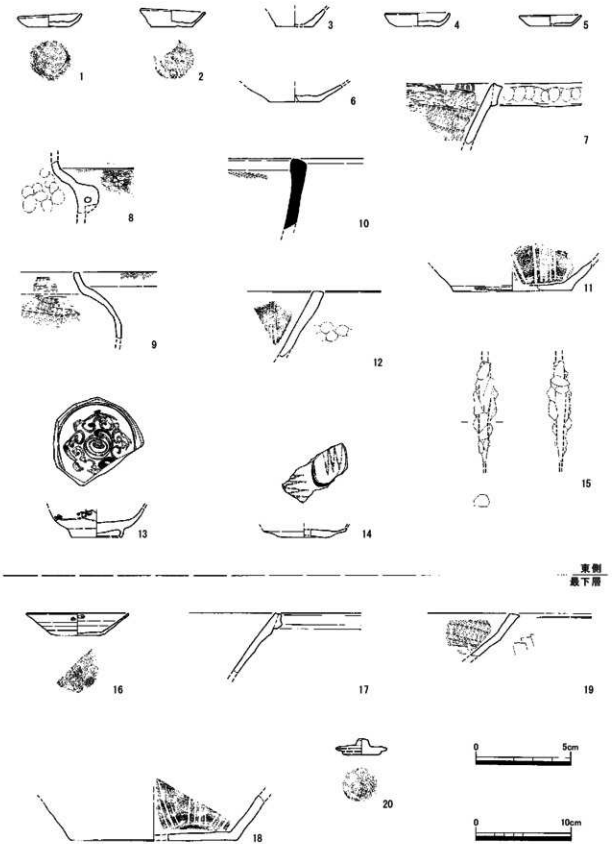
第16図　5号・7号・9号土坑土層断面実測図（S＝1/40）



第 17 図　5 号土坑出土遺物実測図①（12：S=1/2、その他：S=1/4）

口縁部は花びら状に波打っている。11は白磁の高台付皿であり、高台部の厚みが厚い。12は河原石である。

次に第18図である。1～6・16は土師器の皿であり、胴部の立ち上がりや底径より、轆轤成形・水挽き技法により形成されたと想定できる。3は底部が磨滅しているが、その他は全て糸切りが施されていた。6は外面にススが付着し、内面にコゲが付着していたことから、燈明皿としての使用が想定される。また16は胴部に小さな円形の穿孔を確認している。7～10・17は鍋であり、7～9・17は土師器、10は須恵質土器である。7・17は粘土紐貼り付けにより口縁端部を肥厚させた鉢に形態が類似する鍋であり、8・9は湯釜を模した鍋であり、10は火鉢に近い形態をした鍋と想定できる。7は外面にコゲとススが付着し、17は外面全面にススが付着し、8は外面にススが付着し、耳部の直上にスタンプ印が押されている。9は耳部を確認できなかったことから、8より古い型式の鍋と想定される。11・12・18はすり鉢であり、11・18は土師器の底部片、12は須恵質の口縁部片である。11・12は内面において5本1単位のすり目を確認しているが、18は単位不明のすり目である。13は磁器の碗の底部片であり、外面胴部及び内面見込み部において染付を確認している。14は青磁の皿である。内面見込み部に櫛によるジグザグ文様が施されている。15は鉄器である。当初は鉄鏃等の形状も想定したが、両側の断面において円形の鉄の輪郭を確認したことから、錆膨れ



第 18 図　5 号土坑出土遺物実測図②（15：S=1/2、その他：S=1/4）

がひどいものの棒状の製品と考えられる。19は土師器の鉢の口縁部片である。端部が外側に若干つまみ出されている。内外面に鉄分が部分的に薄く付着している。20は土師器の蓋である。頂部にはつまみ部があり、受け口側の面は糸切りが施されている。

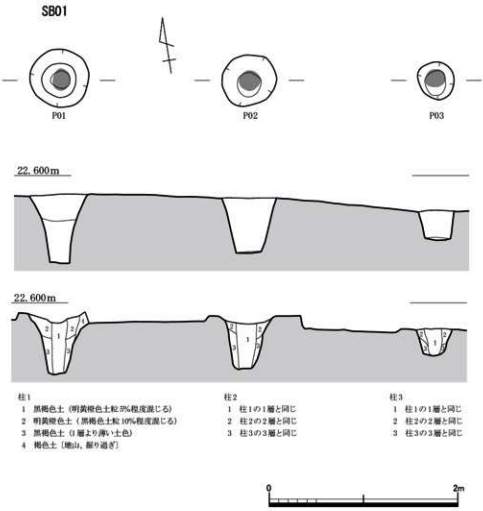
以上より、形態的特徴から、一部13世紀前半に下りそうなものも散見されるが、多くは、14世紀後半～15世紀の間に廃棄されたものと考えられる。一部近世に相当する遺物が見受けられるが、９号土坑からの混ざり込みにより混入していると想定できよう。

２．掘立柱建物

１号掘立柱建物（第19図、図版７）

調査区西側の中央よりで、東西方向に直線的に並ぶ３基の柱穴と想定できるピットを確認した。柱間は約２ｍ、北側には同様なピット列を確認できなかったことから、攪乱により削平されている南側に広がる３×○間の建物と推測される。柱の掘方は円形を呈する。それぞれの柱穴には柱穴番号を付けているので、その番号に従い柱穴の規模を記す。なお、第19図の平面図内に網掛けをしている部分で柱痕を確認した。Ｐ１は西側で確認した柱穴であり、規模は直径約60㎝、深さ65㎝の円形の掘り込みで、径約20㎝の柱痕が確認された。Ｐ２は中央で確認した柱穴であり、規模は直径約60㎝×53㎝、深さ55㎝の円形の掘り込みで、径約20㎝の柱痕が確認された。Ｐ３は東側で確認した柱穴であり、規模は40㎝×38㎝、深さ28㎝の円形の掘り込みで、径約20㎝の柱痕が確認された。

Ｐ１の埋土より弥生土器の広口壺の口縁部を検出したが、小片のため図化するにいたらなかった。



第 19 図　１号掘立柱建物遺構実測図（Ｓ＝1/40）

3．溝

1号溝（第20図、図版5・6）

調査区東壁際で検出し、南北方向に延びる。現状で全長約1.8m、幅約40cmを測る。1号溝を検出する際、5cm程遺構面を削って検出してしまった。床面は、北側で深さ約10cm、南側に向かって低くなっており、途中で一段深く掘り込まれ、南側壁際では深さ約30cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は、3層あるが水平堆積の様相を示す。

埋土からは、土師器が数点出土したが、小片のため図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第22図）

1は土師器の鍋の口縁部片である。口縁端部は粘土紐貼り付けにより口縁端部を肥厚させており、外面にコゲが付着している。

形態的特徴より、14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

2号溝（第20図、図版5・6）

調査区中央の北壁よりに位置する。切り株部分を残して調査をした範囲であるため、部分的な検出となったが、溝は、現状で全長約6.4m、幅20～50cm、深さ最大10cmを測り、断面形状は逆台形を呈し、東西方向に延びる。埋土は黒褐色土の単層である。

埋土からは、土師器が数点出土したが、小片のため図化するにいたらなかった。

3号溝（第20図、図版6）

調査区南東隅で検出し、1号土坑に切られる。現状で全長約3.75m、幅約25cm、深さ最大15cmを測り、西側では溝が立ち上がる。断面形状は逆台形を呈し、東西方向に延びる。埋土は黒褐色土の単層である。

埋土からは、土師器が数点出土したが、小片のため図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第22図）

2は土師器の鉢の口縁部片である。外面に1条沈線が施されている。

形態的特徴より、14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

5号溝（第20図）

調査区西壁際で検出し、東側を攪乱に切られ、2号竪穴状遺構を切り、東西方向に延びる。現状で全長約70cm、幅約60cmを測る。床面はでこぼこしており、深さ最大22cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。5号溝は、本来は地表面より約50cm下位から掘り込みがなされていたが、調査区の遺構検出時に約15cm削りすぎてしまっていた。埋土は、レンズ堆積である。

埋土からは、遺物は検出できなかった。

4．竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第21図、図版6・7）

調査区中央よりやや西側の南壁際で検出し、14号土坑と現代の下水管に切られる。1号竪穴状遺構の一部は南側の調査区外へ延びると考えられる。現状の平面形は約2.2m×約1.7mの方形を呈し、検出面からの深さは最大約30cmを図る。

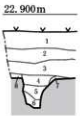
埋土からは、土師器などを数点確認したが、図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第22図、図版8）

3～5は土師器の皿であり、底部は全て糸切りが施されている。6・7は土師器の鍋である。6は渥釜を模した羽釜の胴部片の鍔部分であり、外面鍔部分より下半全面にコゲが付着している。7は口縁端部が内側に屈曲しており、外面と内面口縁部にコゲが付着している。8は青磁の碗であり。口縁端部が外側にゆるく外反している。9は砥石であり、砥面を1面確認している。

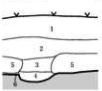
形態的特徴より、多くは14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

SD01



SD01 南壁土層
1 暗黄褐色（しまりあり）［造成土］
2 褐灰色土（しまりあり）［堆積層］
3 褐灰色土（しまりあり）［堆積層］
4 褐灰色土（3層より土色濃い、しまりあり）［SD01］
5 黒褐色土（しまりあり）［SD01］
6 明黄褐色土（黒褐色土粒が30%程混じる、地山の土に5層がブロックで混ざった状態）［SD01］
7 にぶい黄褐色土（しまりあり）
8 暗灰黄色土（しまりあり）［掘り過ぎ］

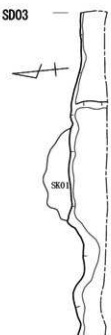
SD02

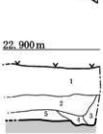


SD02 西壁土層
1 明黄褐色土（しまりあり）［造成土］
2 褐灰色土［造成土］
3 褐灰色土（2層より土色濃い）［SD02］
4 黒褐色土（しまりあり）［SD02］
5 褐灰色土（3層より土色薄い）［包含層］
6 黒褐色土（4層より土色薄い）［包含層］

SD02 ベルト土層
1 黒褐色土（しまりあり）［SD02］
2 黒褐色土（1層より色濃い、柱痕の可能性あり）
3 褐灰色土

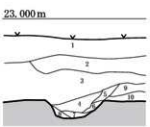
SD03





SD03 土層
1 明黄褐色土（しまりあり）［造成土］
2 褐灰色土（しまりあり）［堆積土］
3 黒褐色土（しまりあり）［SD03］
4 黒褐色土（3層よりは土色薄い、しまりあり）［SD03］
5 灰褐色土（シルト、しまりあり）

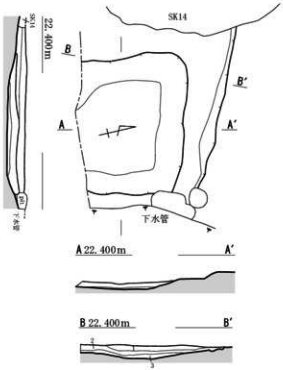
SD05



SD05 西壁土層
1 明黄褐色土（しまりあり）［造成土］
2 褐灰色土（しまりあり）［包含層］
3 褐灰色土（2層よりは土色濃い、しまりあり）［包含層］
4 黒褐色土（シルト、しまりあり）［SD05］
5 褐灰色土（シルト、しまりあり）［SD05］
6 黒褐色土（4層より薄い土色、しまりあり）［SD05］
7 褐灰色土（明黄褐色土粒5%くらい混じる、しまりあり）［SD05］
8 褐灰色土（黒褐色土粒10%位混じる、5層より土色濃い、しまりあり）［SD05］
9 黒褐色土（明黄褐色土粒5%くらい混じる、しまりあり）［包含層］
10 にぶい黄褐色土（黒褐色土粒5%位混じる、しまりあり）［包含層］

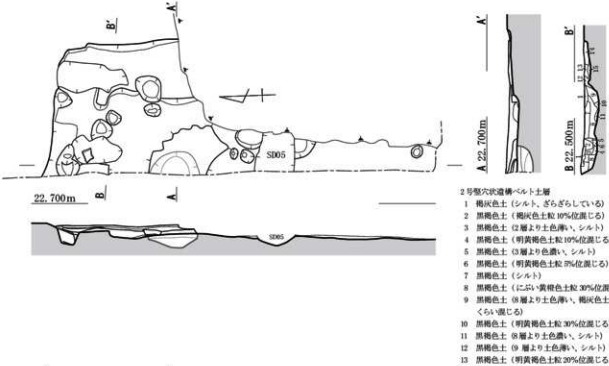
第20図　1号・2号・3号・5号溝遺構実測図（S＝1/40）

1号竪穴状遺構



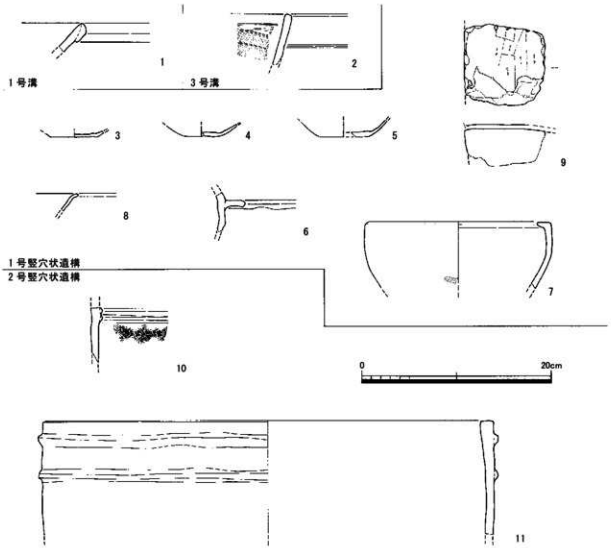
1号竪穴状遺構ベルト土層
1　黒褐色土（しまりあり）
2　黒褐色土（1層より土色濃い、しまりあり）
3　灰黄褐色土（黒褐色土粒30%位混じる、しまりあり）

2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構ベルト土層
1　褐灰色土（シルト、ざらざらしている）
2　黒褐色土（褐灰色土粒10%位混じる）
3　黒褐色土（2層より土色薄い、シルト）
4　黒褐色土（明黄褐色土粒10%位混じる）
5　黒褐色土（3層より色濃い、シルト）
6　黒褐色土（明黄褐色土粒5%位混じる）
7　黒褐色土（シルト）
8　黒褐色土（にぶい黄橙色土粒30%位混じる）
9　黒褐色土（8層より土色薄い、褐灰色土粒20%くらい混じる）
10　黒褐色土（明黄褐色土粒30%位混じる）
11　黒褐色土（8層より土色濃い、シルト）
12　黒褐色土（9 層より土色薄い、シルト）
13　黒褐色土（明黄褐色土粒20%位混じる、シルト）
14　灰黄褐色土（シルト、黒褐色土粒10%位混じる）
15　黒褐色土（シルト）

第21図　1号・2号竪穴状溝遺構実測図（S＝1/60）



第22図　1号・3号溝、1号・2号竪穴状遺構出土遺物実測図（S＝1/4）

2号竪穴状遺構（第21図、図版6）

調査区西壁際で検出し、5号溝と南側に広がる攪乱に切られるが、2号竪穴状遺構の多くは西側と南側の調査区外へ延びると考えられる。現状の平面形は約6.0m×約2.0m、検出面からの深さは最大約30cmを図る。東辺に幅90cm、高さ7cmの段掘りで構築したベッド状遺構を検出した。また、遺構内は、大小様々なピットが存在し、床面も西壁から東側に向かって約5cmの高まりがあるなど、非常にでこぼこした形状を呈している。

埋土からは、瓦器や須恵質土器を数点検出したが、図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第22図）

10・11は須恵質の火鉢である。直線気味に延びた胴部に、口縁部付近にそれぞれ突帯を貼り付けている。11は外面の突帯の間でスタンプ印を確認している。

形態的特徴より、16世紀に相当すると考えられる。

5．ピット（第３図）

調査区全域においてピットを確認した。そのうち、遺物が出土したピットは86基存在し、時代も中世が中心である。図化するに至ったものは少ないが、以下では、図化できた出土遺物について記す。

P11（第23図、図版８・12）

１は土師器のすり鉢である。口縁部はやや内側に内湾した形態をしており、東播系のすり鉢を模倣したと考えられる。内面には単位不明のすり目が施されている。２は球状の石である。球状にするために加工をしたと考えられるが、調整痕は確認できなかった。３は鉄器である。錆膨れがひどいため本来の形状がなかなかつかみにくいが、断面より方形の鉄の塊を確認している。

P42（第23図）

４は土師器の鍋の口縁部片である。口縁端部は肥厚しており、内外面前面にススが付着している。

P58（第23図、図版12）

５・６は土師器の皿であり、形態的に轆轤成形・水挽き技法により形成されたと想定できる。ともに底部は糸切りが施されている。５は内外面の口縁部にススが付着していたことから、燈明皿として使用された可能性が想定される。

P59（第23図、図版12）

７は土鈴である。全体的に押さえやナデ調整により整形されている。頂部には紐などをとおすための穿孔が施されており、下部は方形の切り込みにより中の土玉が転がった時に発生する音が聞こえるように調整されている。切り込み部分を境に左右で若干頂部から垂直に伸ばした際の長さが異なっている。中の土玉は直径約２㎝である。

P68（第23図）

８は河原石である。

P75（第23図）

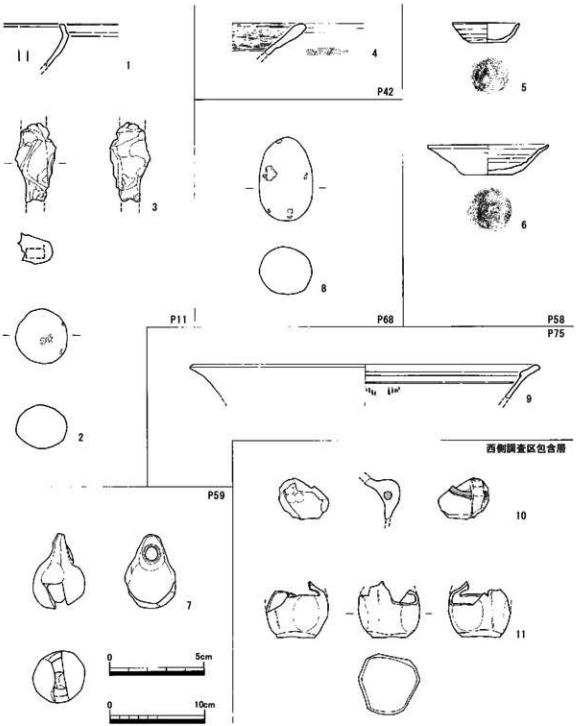
９は陶器のすり鉢の口縁部片である。内面には単位不明のすり目を確認している。

6．調査区西側包含層

調査区西側（下水道管より西側）において重機による遺構検出を行った際、全面において本来の遺構を確認できる高さより３㎝程度包含層を残してしまっていることがわかった。よって、その包含層部分の掘り下げを人力で行っていたが、掘り下げた土の中には、土器を中心に遺物が包含されているのが散見された。室内で整理作業を行っている際、鉄分や鉄器が付着した土器が数点発見できた。上記のように９号土坑では、鉄分が付着した遺物が多数出土しており、また、調査区西側で検出した遺構は９号土坑より古い時代に比定できることから、９号土坑が炉として機能していた時期や炉そのものとの関係が想定される層がこの包含層に含まれる可能性が否定できなかったことから、本書に掲載すべきと判断し、以下に数点ではあるが、鉄分が付着した土器と形状がわかり実測できる遺物について記すこととする。

出土遺物（第23図、図版８）

10は土師器の鍋である。湯釜を模した耳鍋の耳部であり、穿孔の場所に鉄棒が残存している。11は陶器の瓶である。底部は隅丸三角形を呈し、底部は糸切りが施されている。



第 23 図　ピット、西側調査区包含層出土遺物実測図（2・3・7・8：S=1/2、その他：S＝ 1/4）

第5章　まとめ

今回の調査で検出した遺跡に対して評価をするにあたり、まず、各遺構の時期的変遷についてまとめたい。また、9号土坑で検出した石組み炉は、石組みの中に陶磁器や石臼・砥石等の破片が混ざり、鉄分が付着した土器を8点検出した。小郡市内では、このような石組み炉を未だ発見していなかったことから、若干の検討を行いたい。

1．三国小学校遺跡5の遺構の時期とその変遷について

今回の調査で検出した遺構のうち、遺構の切り合い関係や出土遺物により時期が明確なものは下記のとおりである。なお、今回の調査では、遺構の切り合い関係のみにより時期を特定したものは見当たらなかった。

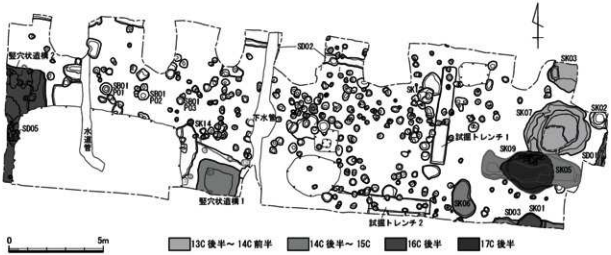
13 世紀後半～ 14 世紀前半：3号土坑、7号土坑
14 世紀後半～ 15 世紀　：6号土坑、5号土坑、1号溝、3号溝、1号竪穴状遺構
16 世紀後半　：1号土坑、2号竪穴状遺構
17 世紀後半　：9号土坑（鉄分付着土器は 16 世紀後半主体で一部 17 世紀代が混ざる、14 世紀後半～ 15 世紀が混ざり）

このうち7号土坑と9号土坑については、出土した遺物に若干ではあるが時期差がみられたので、以下で整理を行いたい。

まず、7号土坑は、最上層遺物は 14 世紀後半～ 15 世紀に比定でき、それ以外が 13 世紀後半～ 14 世紀前半に比定できる。よって、井戸としての機能は、13 世紀後半～ 14 世紀前半の過程で徐々に埋まっていき、最終的に 14 世紀後半～ 15 世紀頃に埋まったものと考えられる。

次に、9号土坑は、石組み内から出土した遺物の時期を検討すると 17 世紀後半代に相当すると考えられる。また、石組み付近で出土した第 10 図 15・16 も同時期と考えられる。その他の遺物は、石組みを検出した高さより下位で検出しているものがほとんどであり、14 世紀後半～ 16 世紀後半代を示している。特に鉄分が付着しているものを観察すると、破片の断面にまで固形状の鉄分の塊が付着していることから、本来破片であったものに鉄分が流れ落ち固まったと想定される。ちょうど、5号土坑の時期の中心が 14 世紀後半～ 15 世紀に比定できることから、5号土坑内に堆積していた遺物が9号土坑を掘り込み炉として使用している際にも9号土坑の底面付近に遺存し、結果、今回の調査で発見したような形態で残存していたと考えられよう。したがって、9号土坑の石組み炉として機能した時期は、石組み内から出土している時期以降と考えられることから、17 世紀後半以降と想定できよう。

最後に、今回の調査区内における遺構の変遷についてまとめた図が第 24 図である。本調査区北隣で実施された3次調査では、本調査区9号土坑とほぼ同時期に比定できる溝が南北方向・東西方向で検出されていることから石組み炉との関係性が想定でき、今後、屋敷の存在や石組み炉とそれ以外を区分する溝等、より詳細な検討を行なうことで当時の人々の活動を復元できる可能性があり、研究の研鑽が望まれよう。



第 24 図　三国小学校遺跡5遺構変遷図（S=1/200）

2．9号土坑の石組み炉について

小都市内では、近世に相当する遺跡の発掘調査件数は少なく、ましてや生活・生業が推定できる遺構を検出した事例はもっと限られている。そこで、9号土坑の石組み炉を検討するにあたり、九州歴史資料館岡寺良氏に指導を仰いだ。以下では、ご指導いただいた内容を含め若干の考察を行いたい。なお、鉄関連遺物の分類整理に関しては、鳥取県埋蔵文化財調査センター調査報告書13・17において模式図が提示されている（穴澤・小口2007、坂本2014）ことから、これを基に以下考察を進める。

まず、9号土坑の埋土中からは、「土師器、須恵質土器、磁器、陶器、石器（石臼・砥石・台石）、鉄製品、土製品（坩堝）」が、p.16の補足で記した石組み炉土層1層及び地山面までの埋土からは、「鉄滓・焼土・木炭」を発見している。以下では、その概要を整理する。

石組み内からは、使用後に割って廃棄したと想定できる石臼・砥石や割れ目にまでコゲが付着している石製品（第13図4・5）や、土器類（磁器・陶器・土師器・須恵質土器）が割れてはいるが1個体ごとまとまって出土していることから、石組みを組む際に、石製品類は石組みの材料として、また、土器類は石組みの際に紛れたと考えられる。一方、石組み外からは、鉄分が付着した土器やコゲが付着した土器が出土しており、石組み内から出土した遺物と様相が異なる。特に、固形状の鉄分が付着している土器は、石組み内から出土した土器より時期が古く14世紀後半～15世紀に比定できることから、5号土坑内に廃棄された遺物が9号土坑を掘削した際に下面に残り、9号土坑内での炉の仕様により鉄分が流れ落ち付着したことが想定されよう。

埋土からは、鉄滓・焼土・木炭が出土している。鉄滓に関しては岡寺氏にも確認していただき、碗形滓数点を確認したが、その他の多くは非・弱磁着性の鉄滓であり、形状が判別できるものとしては直径1㎜程度の棒状形態のものを確認しているが、多くは形状が不定形で大変もろく、焼土塊の固まりにも比定できそうな様相を呈している。そのため、流動滓や粒状滓等は残念ながら確認できていない。また、焼土や木炭はごくわずかに検出したのみである。

石組みに使用された石を観察すると、被熱を受けた痕跡が大部分で確認でき、中には一部コゲが付着しているものも散見された。このことから、石組みは少なくとも火を受けるような用途に使用されたと想定できる。

以上より、9号土坑の石組み炉の性格を考察したい。まず、炉としては鉄滓の出土量が極端に少ない点が特徴としてあげる。製鉄などの精錬鍛冶では多量の鉄滓が出土する傾向があり、出土した鉄滓もその特徴から流動滓や粒状滓等直接的に鍛冶を想定されるものが出土するが、今回はそれらが出土していない。しかし、鉄を叩いたときに垂れて出来るとされる碗形滓が数点出土していることから、少なくとも鍛冶が行われていた可能性が想定される。よって、鍛錬鍛冶に使用された炉と考えられる。第12図12の埋場は鋳型の可能性も否定できないものの、断定できる鋳型が出土していないことから鋳造の可能性は薄いと考えられることから、集落内で実施された小鍛冶の可能性が高いと考えられよう。

本遺跡が所在する台地は、本遺跡のすぐ東側付近よりなだらかに傾斜することがこれまでの試掘成果により判明している。また、三国小学校遺跡3次調査では、屋敷等の区画を成していた可能性が想定される溝が検出されていることから、小鍛冶周辺には建物が存在した可能性が想定されよう。本遺跡東側約200mのところには、旧筑前街道が通り、17世紀後半まで非常に栄えた横隈宿が存在していたことから、本遺跡周辺は周囲より少し高台に小鍛冶をもつ集落として栄えたことが想定されよう。旧筑前街道が参勤道であった頃の遺跡はあまり発見されてないことから、今後の調査成果の積み重ねが待たれる。

第25図　旧筑前街道横隈宿と本調査地の位置関係
(S=1/2,500)

＜参考文献＞
穴澤義功・小口英一郎 2007「第7節(6)鍛冶関連遺物」『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター
坂本嘉和 2014「第6節3鉄関連遺物」『殿河内ウルミ谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター

出土遺物観察表

1．土器

法量＝口：口径、高：器高、底：底径　器種＝土：土師器、須質：須恵質土器、瓦器：瓦器、磁：磁器、陶：陶器、白：白磁、青：青磁

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
6-1	8-2	1号土坑	土・鍋	口：(14.5) 高：6.0	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：灰黄(2.5Y7/2)	1mm以下の微砂をまく含む	やや劣	外：ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ、ナデ	口～胴約1/6	内外面胴部全面にススが付着。
6-2	8-1	1号土坑	土・鍋	高：9.9	外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ナデ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ	胴約1/6	
6-3		3号土坑	土・皿	底：4.0 高：0.95	外：橙(5YR6/6) 内：にぶい赤褐(5YR5/4)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/1	底部は糸切り。
6-4		3号土坑	土・皿	底：3.6 高：1.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5Y7/4)	1mm以下の微砂粒を少し含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約2/3	底部は糸切り。
6-5		3号土坑	須質・すり鉢	高：6.1	外：灰～灰白(N4/～7.5Y7/1) 内：灰(N4/)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ後ナデ	口～胴上小片	内面に単位不明のすり目あり。 外面上半～内面全面にかけてススが付着。
6-6		3号土坑	須質・鍋	高：8.2	外：黄灰(2.5Y5/1) 内：黄灰(2.5Y5/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ヨコナデ、押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	口～胴上小片	
6-7		3号土坑	磁・硯	底：5.4 高：1.7	外：灰白(2.5GY8/1) 内：灰白(2.5GY8/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外面：釉薬 内面：釉薬	胴下～底約3/4	内面に鉛の目。
8-1		6号土坑	土・皿	底：(6.0) 高：2.2	外：にぶい橙(7.5YR5/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
8-2		6号土坑	土・皿	底：(6.2) 高：3.2	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
8-3		6号土坑	土・鍋	高：4.6	外：にぶい黄褐(10YR5/3) 内：にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ハケメ	口～胴上小片	内外面にコゲ付着。
8-4		6号土坑	土・鍋	高：3.3	外：明褐(7.5YR5/8) 内：明赤褐(5YR5/6)	3mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上小片	外面全面にコゲ付着。
8-5	8-4	6号土坑	土・鍋	口：32.8 高：16.6	外：黒(2.5Y2/1) 内：にぶい黄橙(10YR5/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、磨滅 ハケメ 内：ハケメ、ナデ	口～胴下約1/1	外面全面にコゲ付着。
8-6		4号土坑 上層	土・皿	口：(7.0) 底：(4.9) 高：1.3	外：灰黄(2.5Y6/2) 内：灰黄(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
8-7		4号土坑	土・鍋	高：3.2	外：黒褐(10YR3/2) 内：橙(7.5YR6/6)	1mm以下の砂粒をまく含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ	口～胴上小片	胴部外面にコゲ付着。
8-8		4号土坑 上層	土・すり鉢	底：(11.4) 高：4.7	外：黄灰(2.5Y5/1) 内：にぶい黄(2.5Y6/3)	1mm以下の微細をやや多く含む	良	外：磨滅 内：ナデ	胴下～底約1/5	内面に３本１単位のすり目あり。
8-9		7号土坑 下層	土・すり鉢	底：(13.8) 高：2.0	外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：灰黄(2.5Y7/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：磨滅 内：ナデ	胴下～底約1/6	内面に４本１単位のすり目あり。
8-10		7号土坑	土・甕	口：(23.2) 底：23.0 高：27.1	外：灰黄(2.5Y6/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、ヘラ削り、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ナデ	口～胴約1/2 底約1/1	内面に付着物あり。
8-11	8-5	7号土坑	須質・鉢	高：5.1	外：灰黄(2.5Y6/2) 内：黄灰(2.5Y5/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、磨滅 内：ナデ	口～胴上小片	
8-12		7号土坑	須質・鉢	高：5.4	外：灰(7.5Y5/1) 内：灰白(7.5Y7/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ	口～胴上小片	
8-13		7号土坑	須質・ 高台付鉢	高：4.4	外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：灰(N4/)	1mm以下の砂粒を少し含む	良	外：ヨコナデ、ナデ 内：回転ナデ	胴下～高台小片	
8-14		7号土坑	土・坩	高：5.5	外：橙(7.5YR6/6) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：磨滅 内：ナデ、ヨコナデ、押さえ	頸～胴下約1/3	外面に被熱痕あり。
10-1		9号土坑	土・皿	底：(4.1) 高：1.45	外：にぶい橙(7.5Y7/4) 内：浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
10-2		9号土坑	土・皿	底：4.6 高：1.0	外：浅黄橙(7.5YR8/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/1	底部は糸切り。
10-3		9号土坑	土・皿	底：(6.4) 高：1.4	外：浅黄橙(7.5YR8/4) 内：浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
10-4		9号土坑 最上層	土・皿	底：(5.4) 高：2.1	外：オリーブ黒(5Y3/1) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。 外面全面にススが付着。
10-5		9号土坑 第9図下層の下	土・鍋	高：3.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい褐(7.5YR5/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	口～胴上小片	
10-6		9号土坑 第9図下層の下	土・鍋	高：5.3	外：褐(7.5YR4/3) 内：にぶい褐(7.5YR5/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	口～胴上小片	内外面にススが付着。
10-7		9号土坑 第9図下層の下	土・鍋	口：14.5 高：4.0	外：黄灰(2.5Y6/1) 内：黄灰(2.5Y5/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、沈線、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	口～胴上約1/5	
10-8		9号土坑	土・鉢	高：3.6	外：褐(7.5YR4/3) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂をまく含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ	口～胴小片	外面胴部にコゲ付着
10-9	9-10	9号土坑 第9図上層と下層の間	須質・鉢	高：4.45	外：灰黄(2.5Y6/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	1mm以下の微砂をまく含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ	口～胴上小片	内外面にススが付着。
10-10		9号土坑 第9図下層の下	須質・鉢	高：4.5	外：灰白(5Y7/1) 内：灰(5Y6/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ヨコナデ、磨滅 内：ヨコナデ	口～胴上小片	

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
10-11	10-6	9号土坑	土・すり鉢	高:6.3	外:暗灰黄(2.5Y5/2) 内:灰白(5Y7/2)	1mm以下の微砂を多く含む	やや劣	外:ヨコナデ、磨滅 内:ヨコナデ	口～胴上小片	内面に4本1単位のすり目あり。 外面に鈍分付着。
10-12		9号土坑	土・すり鉢	底:(13.1) 高:3.5	外:黒(10YR2/1) 内:灰黄褐(10YR6/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:ナデ 内:ナデ	胴下～底約1/4	外面全面にスス付着。 内面一部にスス付着。 内面に単位不明のすり目あり。
10-13	10-16	9号土坑 第9図下層の下	磁・猪口	底:2.7 高:1.55	外:灰白(2.5GY8/1) 内:灰白(2.5GY8/1)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴下～高台約1/1	内面に鈍分付着。
10-14	10-3	9号土坑 第9図下層の下	陶・碗	底:(6.2) 高:1.7	外:褐(10YR4/6) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	緻密	良好	外:釉薬 内:回転ナデ	胴下～底約1/3	外面高台部に鈍分付着。
10-15	9-13	9号土坑 14図3の下	磁・高坏	口:(6.4) 底:3.6 高:5.45	外:灰白(N8/) 内:灰白(N8/)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴上約1/2 脚～高台約1/1	外面に染付あり。
10-16	9-14	9号土坑 石組み内	磁・碗	口:(11.0) 底:4.6 高:6.5	外:緑灰(5G5/1) 内:浅黄(2.5Y7/3)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴下約1/2 底～高台約1/1	
10-17		9号土坑	陶・すり鉢	底:(4.8) 高:7.85	外:にぶい赤褐(2.5YR5/4) 内:灰褐(5YR5/2)	緻密	良好	外:ヨコナデ 内:すり目	胴下～底約1/3	内面全面にすり目あり。
10-18		9号土坑	白・碗	口:(18.4) 高:2.8	外:明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内:明オリーブ灰(2.5GY7/1)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴上約1/6	
10-19	9-10	9号土坑	土・鉢	高:3.5	外:灰(5Y6/1) 内:オリーブ黒(5Y3/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ハケメ、ヨコナデ	口～底小片	外面口縁部前面にスス付着。 内面全面にスス付着。
10-20	9-11	9号土坑	土・鉢	高:5.4	外:黄褐(2.5Y5/3) 内:灰黄(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ	口～底小片	外面にコゲ付着。
11-1	9-12	9号土坑 地表下3.2～3.3mの範囲	土・鉢	高:6.3	外:黒(10YR3/1) 内:灰黄褐(10YR5/2)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ナデ、ハケメ 内:ナデ	口～底小片	内外面にスス付着。
11-2	10-2	9号土坑 地表下3.2～3.3mの範囲	須賀・鉢	口:(34.6) 高:8.2	外:暗灰黄(2.5Y5/2) 内:灰黄(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外:ヨコナデ、沈線、ヘラ削り 内:ヨコナデ	口～胴上約1/4	内面に若干鈍分付着。
11-3		9号土坑 第9図下層の下	土・甑	高:5.5	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:橙(5YR6/6)	2mm以下の微砂を多く含む	良	外:押さえ 内:ヘラ削り	把手約1/1	
11-4		9号土坑	土・皿	底:(4.7) 高:1.6	外:浅黄橙(7.5YR8/6) 内:橙(5YR7/6)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。
11-5	10-5	9号土坑	須賀・鉢	高:4.9	外:褐灰(10YR6/1) 内:灰白(10YR7/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ	口～胴上小片	内外面に鈍分付着。
11-6	10-1	9号土坑	土・すり鉢	口:(21.4) 底:(12.4) 高:9.1	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を少し含む	やや劣	外:ヨコナデ、粗いナデ 内:ヨコナデ、磨滅	口～底約1/3	内面に格子状のすり目あり。
11-7	10-4	9号土坑	瓦器・火鉢	高:10.6	外:灰(N5/) 内:灰(N4/)	1mm以下の微砂を多く含む	良好	外:ヨコナデ、突帯、ナデ 内:ナデ、ハケメ	口～胴小片	外面に鈍分付着。
12-1		9号土坑 石組み内	土・鍋	底:(26.2) 高:6.85	外:にぶい橙(5YR6/4) 内:にぶい橙(5YR6/6)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:突帯、ナデ 内:工具ナデ、ハケメ後ナデ、ナデ	胴下～底約1/6	外面胴部にススと被熱痕あり。
12-2		9号土坑 石組み内	須賀・鍋	高:5.0	外:黒(10YR2/1) 内:黒褐(10YR5/1)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	口～胴上小片	内外面にスス付着。
12-3		9号土坑 石組み内	土・火鉢	高:6.0	外:浅黄(2.5Y7/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂をわずかに含む	やや劣	外:ヨコナデ、突帯 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ナデ	口～胴上小片	外面にスタンプ印あり。
12-4		9号土坑 石組み内	陶・すり鉢	高:5.65	外:灰褐(7.5YR4/2) 内:灰褐(7.5YR4/2)	緻密	良好	外:釉薬、ヨコナデ 内:釉薬、ヨコナデ	口～胴上小片	内面に単位不目のすり目あり。
12-5		9号土坑 石組み内	陶・鉢	高:2.7	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:黒褐(10YR3/2)	緻密	良好	外:釉薬、ヨコナデ 内:釉薬、ヨコナデ	口～胴上小片	
12-6	9-7	9号土坑 石組み内	磁・碗	口:(5.0) 底:5.0 高:6.4	外:にぶい黄(2.5Y6/3) 内:浅黄(2.5Y8/3)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴下約1/2 底～高台約1/1	
12-7	9-5	9号土坑 石組み内	磁・碗	底:4.6 高:5.5	外:灰白(7.5Y7/1) 内:オリーブ灰(10Y6/2)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴約1/2 底完形	
12-8	9-4	9号土坑 石組み内	磁・碗	底:4.5 高:4.1	外:灰白(N8/) 内:灰白(N8/)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴約1/6 底約1/1	外面高台部に染付あり。
12-9	9-6	9号土坑 石組み内	磁・碗	口:(11.6) 底:(4.5) 高:6.35	外:灰白(10YR/1) 内:灰白(10YR/1)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～底約1/2	内外面に染付あり。
12-10	9-8 10-17	9号土坑 石組み内	磁・碗	口:(11.8) 底:(4.9) 高:6.4	外:灰白(10YR/1) 内:灰白(10YR/1)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～底約1/2	内面見込み部分に鈍分付着。 内外面に染付あり。
12-11	9-9	9号土坑 石組み内	磁・瓶	底:25.1 高:7.0	外:灰白(10YR7/1) 内:暗褐(7.5YR3/3)	緻密	良好	外:釉薬 内:釉薬	頸～胴上約1/2 胴下～底約1/1	胴部染付あり。
17-1	12-16	5号土坑	土・皿	高:(4.8) 高:1.05	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:灰黄褐(10YR5/2)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。 内外面にスス付着。
17-2	12-15	5号土坑	土・皿	口:(5.6) 底:(3.2) 高:1.1	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
17-3	12-18	5号土坑	土・皿	底：(5.0) 高：1.45	外：褐灰（10YR5/1） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
17-4		5号土坑	土・皿	口：(10.6) 底：(6.0) 高：2.5	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
17-5	12-13	5号土坑	土・皿	底：4.7 高：1.0	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：ナデ 内：回転ナデ	胴約1/4 底約1/1	底部は糸切り。
17-6	12-7	5号土坑	土・皿	底：6.0 高：1.3	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	1mm以下の微砂を多く含む	やや劣	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴約1/4 底約1/1	底部は糸切り。
17-7		5号土坑	土・鍋	高：9.0	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：橙（7.5YR6/6）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：ナデ、指押さえ 内：ナデ	口～胴小片	外内面にコゲ付着。
17-8	10-9	5号土坑	須賀・すり鉢	口：(28.9) 高：7.25	外：灰（5Y4/1） 内：灰（5Y4/1）	1mm以下の微砂を多く含む	やや劣	外：ヨコナデ、ナデ 内：ハケメ	口～胴約1/6	内面に5本1単位のすり目あり。
17-9	10-13	5号土坑	須賀・すり鉢	底：(16.6) 高：4.3	外：灰（5Y5/1） 内：灰（5Y5/1）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ナデ、磨滅 内：ナデ、回転ナデ	胴～底約1/6	内面に4本1単位のすり目あり。
17-10		5号土坑	青磁・皿	高：2.0	外：オリーブ灰（10Y5/2） 内：オリーブ灰（10Y6/2）	緻密	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴小片	
17-11		5号土坑	白磁・高台付皿	口：(15.5) 底：3.65 高：4.6	外：灰白（2.5GY8/1） 内：灰白（2.5GY8/1）	緻密	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴約1/6 底約1/1	内面見込みに砂目あり。
18-1	12-8	5号土坑	土・皿	口：(6.6) 底：4.4 高：1.4	外：にぶい橙（7.5Y6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～胴約3/4 底約1/1	
18-2	12-9	5号土坑	土・皿	口：7.0 底：4.3 高：1.95	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR6/8）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約5/6	底部は糸切り。
18-3	12-11	5号土坑	土・皿	底：(4.0) 高：1.85	外：にぶい橙（5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：磨滅 内：回転ナデ	口～底約1/1	底部は磨滅。
18-4	12-12	5号土坑	土・皿	口：(6.9) 底：(4.4) 高：1.4	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り。
18-5	12-17	5号土坑	土・皿	口：(6.6) 底：(4.2) 高：1.15	外：橙（5YR7/6） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/3	底部は糸切り。
18-6	12-14	5号土坑	土・皿	底：(5.2) 高：1.8	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。 外面にスス付着。 内面にコゲ付着。
18-7		5号土坑	土・鍋	高：6.4	外：黒褐（2.5Y3/1） 内：にぶい赤褐（5YR5/4）	2mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、押さえ、ナデ 内：ハケメ	口～胴小片	外面にコゲ・スス付着。
18-8		5号土坑 第15図記載	土・鍋	高：5.5	外：にぶい褐（7.5YR5/4） 内：褐（7.5YR4/4）	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ハケメ、沈線、ナデ 内：押さえ	胴小片	外面にスス付着。 外面にスタンプ印あり。
18-9		5号土坑 第15図記載	土・直口壺	高：7.0	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ、粗いナデ 内：ヨコナデ、ハケメ、ナデ	口～胴小片	
18-10		5号土坑 第15図記載	須賀・鍋	高：7.4	外：黒（5Y2/1） 内：灰（5Y4/1）	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ナデ	口～胴小片	
18-11	10-12	5号土坑	土・すり鉢	底：(12.4) 高：3.2	外：にぶい黄橙（10YR5/3） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：粗いナデ、ハケメ 内：工具ナデ	胴下～底約1/6	内面に5本1単位のすり目あり。
18-12	10-10	5号土坑	須賀・すり鉢	高：6.9	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：灰（7.5Y4/1）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、ナデ、押さえ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴小片	内面に5本1単位のすり目あり。
18-13	10-14	5号土坑 第15図記載	磁・硯	底：5.3 高：3.1	外：明緑灰（7.5GY8/1） 内：明緑灰（7.5GY7/1）	緻密	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～底約3/4	内外面に染付あり。
18-14		5号土坑	青・皿	底：(4.3) 高：1.0	外：オリーブ灰（10Y6/2） 内：オリーブ灰（10Y6/2）	緻密	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～底約1/2	内面にジグザグ文様あり。
18-16	12-10	5号土坑	土・皿	口：(10.8) 底：4.4 高：2.35	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り。 胴部に穿孔あり。
18-17		5号土坑	土・鍋	高：6.3	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：にぶい黄橙（10YR5/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：磨滅、ヨコナデ 内：磨滅	口～胴上小片	外面全面にスス付着。
18-18	10-11	5号土坑	土・すり鉢	底：(17.8) 高：4.7	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ナデ 内：ナデ	胴下～底約1/6	外面に被熱痕あり。 内面に単位不明のすり目あり。
18-19		5号土坑	土・鉢	高：4.5	外：灰（5Y4/1） 内：暗灰黄（2.5Y4/2）	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴小片	内外面に鉄分付着。
18-20		5号土坑	土・蓋	口：5.4 高：1.7	外：灰黄（2.5Y7/2） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ナデ 内：	口～底約1/1	底部は糸切り。
22-1		1号溝	土・鍋	高：3.0	外：黒（7.5YR1.7/1） 内：橙（7.5YR6/6）	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：磨滅 内：ナデ	口～胴上小片	外面にコゲ付着。
22-2		3号溝	土・鉢	高：5.3	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：灰黄（2.5Y7/2）	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：ナデ、沈線 内：ナデ、ハケメ	口～胴上小片	外面に1条沈線。
22-3		1号竪穴状遺構テラス下	土・皿	底：(5.0) 高：0.6	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
22-4		1号竪穴状遺構テラス上	土・皿	底：(4.0) 高：1.3	外：灰黄褐（10YR5/2） 内：黒褐（5YR2/1）	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
22-5		1号竪穴状遺構テラス上	土・皿	底：(5.0) 高：1.75	外：にぶい橙(5YR6/4) 内：橙(5YR7/6)	1mm以下の微砂をまく含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	□～底約1/3	底部は糸切り。
22-6		1号竪穴状遺構	土・鍋	高：4.15	外：灰黄褐(10YR5/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ヨコナデ 内：ナデ	胴部小片	胴部縣下半全面にコゲ付着。
22-7		1号竪穴状遺構	土・鍋	口：(19.6) 高：7.0	外：灰黄褐(10YR5/2) 内：灰黄褐(10YR4/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	□～胴約1/6	外面にコゲ付着。 内面口縁部にコゲ付着。
22-8		1号竪穴状遺構	青磁・碗	高：1.8	外：灰白(7.5Y7/2) 内：灰白(7.5YR7/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	□～胴上小片	
22-9		2号竪穴状遺構	須質・火鉢	口：(45.0) 高：12.0	外：褐灰(10YR4/1) 内：褐灰(10YR5/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ナデ 内：ナデ	□～胴上約1/6	
22-10		2号竪穴状遺構P2	須質・火鉢	高：5.8	外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：にぶい黄(2.5Y6/3)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外：ナデ 内：ナデ	胴小片	外面にスタンプ印あり。
23-1		P11	土・すり鉢	高：4.5	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、磨滅 内：ヨコナデ、磨滅	□～胴上小片	内面に単位不明のすり目あり。
23-4		P42	土・鍋	高：3.35	外：黒(5Y2/1) 内：黒(7.5YR2/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	やや劣	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ	□～胴上小片	内外面全面にススが付着。
23-5	12-5	P58	土・皿	口：7.15 底：4.0 高：2.15	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	□～胴約2/3 底完形	底部は糸切り。 内外面口縁部にススが付着。
23-6	12-6	P58	土・皿	口：(12.8) 底：5.0 高：3.15	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：灰黄褐(10YR4/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	□～胴約1/4 底完形	底部は糸切りを2度施している。
23-9		P75	陶・すり鉢	口：(37.0) 高：3.5	外：灰褐(5YR4/2) 内：灰褐(5YR4/2)	緻密	良好	外：釉薬、ヨコナデ 内：釉薬、すり目	□～胴上約1/5	内面に単位不明のすり目あり。
23-10	8-3	西側調査区包含層	土・鍋	高：4.35	外：灰(7.5Y4/1) 内：浅黄(2.5Y7/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外：ナデ 内：ナデ、押さえ	把手小片	把手の穴の部分に鉄棒が残存。
23-11		西側調査区包含層	陶・瓶	底：6.45 高：5.9	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：暗赤褐(5YR3/2)	緻密	良好	外：ナデ 内：ナデ	胴～底約1/1	底部は糸切り。

2．土製品

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値			備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	
12-12	10-15	9号土坑石組み内	坩堝	5.5	8.8	5.85	外面全面に鉄分付着。内面にコゲ付着。 鍛冶関連用具の可能性あり。
23-7	12-4	P59	土鈴	3.9	2.7	2.7	重量11.6g。

3．石器

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
6-8	8-7	3号土坑	石臼	15.0	8.15	7.5	655	
6-9	8-6	3号土坑	石臼	12.3	15.7	8.15	2000	上石部分。
8-9	8-8	9号土坑	砥石	7.4	5.15	3	180	砥面1面
11-8	9-1	9号土坑石組み内	砥石	9.4	4.3	4.25	305	砥面4面。
13-1	11-1	9号土坑石組み内	石臼	16.1	9.2	6.2	1000	上石部分。
13-2	11-2	9号土坑石組み内	石臼	18.3	16.15	5.95	1541	上石部分。
13-3	11-3	9号土坑石組み内	石臼	29.4	14.5	7.2	5020	上石部分。
13-4	11-5	9号土坑石組み内	台石	15.75	7.35	2	500	コゲ・ススが付着。 鍛冶関連用具の可能性あり。
13-5	11-4	9号土坑石組み内	台石	11.95	4.75	2.1	295	コゲ付着。
14-1	9-2	9号土坑石組み内	砥石	12.4	5.55	2.7	318	砥面3面。
14-2	9-3	9号土坑石組み内	砥石	9.7	4.75	3.7	270	砥面4面。
17-12		5号土坑最上層	河原石	5.65	3.8	2	49.2	
22-9	8-9	1号竪穴状遺構	砥石	8.65	8.45	3.9	410	砥面1面
23-2	8-10	P11	石玉	2.85	2.7	2.3	24.2	
23-8		P68	河原石	4.40	2.8	2.5	42.4	

4．鉄器

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
11-9	12-1	9号土坑	鉄釘	4.1	2.5	7.5	4.6	
14-3	11-7	9号土坑	鉄棒	18.35	2	1.2	29.2	
14-4	11-6	9号土坑	刀子	19.85	4.1	1.25	105	
18-15	12-2	5号土坑	鉄棒	5.3	0.9	0.6	4.5	
23-3	12-3	P11	不明鉄器	4.2	2.15	1.6	10.8	

①調査区全景（東側から）

②調査区全景（西側から）

図版 2

①１号土坑南壁土層断面・完掘（北側から）

⑤３号土坑北壁土層断面（南側から）

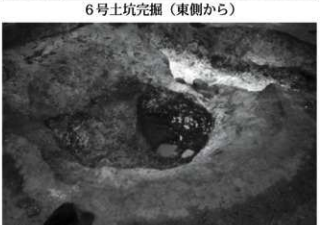
②２号土坑完掘（南側から）

⑥６号土坑遺物出土状況（東側から）

③３号土坑遺物出土状況（北側から）

６号土坑完掘（東側から）

④３号土坑完掘（北側から）



⑧７号土坑完掘（北西側から）

①7号土坑東西ベルト土層断面西側（北側から）

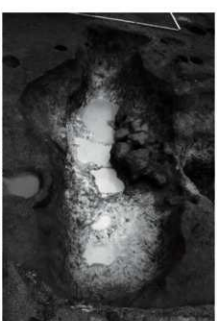
③7号土坑東西ベルト土層断面西側（南側から）

②7号土坑東西ベルト土層断面東側（北側から）

④7号土坑東西ベルト土層断面東側（南側から）

⑤5号土坑東側遺物出土状況 up
（東側から）

⑥5号土坑東側遺物出土状況
（東側から）



⑦5号土坑完掘（東側から）

図版 4

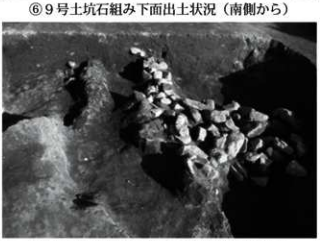
①９号土坑石組み出土状況（南側から）

⑤９号土坑石組み内鉄器出土状況 up（東側から）

②９号土坑石組み出土状況（西側から）

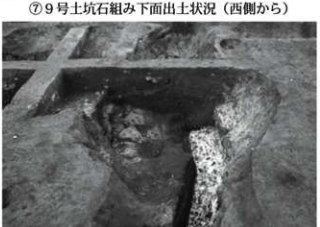
⑥９号土坑石組み下面出土状況（南側から）

③９号土坑石組み出土状況（北側から）



⑦９号土坑石組み下面出土状況（西側から）

④９号土坑石組み出土状況（東側から）



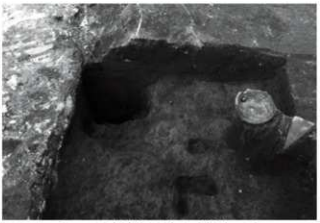
⑧９号土坑完掘（西側から）

①９号土坑石組み南北土層断面（西側から）

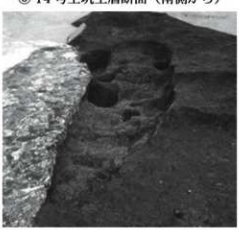
②９号土坑南北土層断面西側（西側から）

③９号土坑南北土層断面東側（東側から）

④９号土坑東西土層断面（南側から）



⑤ 14 号土坑土層断面（南側から）



⑥ 14 号土坑完掘（南側から）

⑦１号溝南壁土層断面（北側から）

⑧２号溝西壁土層断面（東側から）

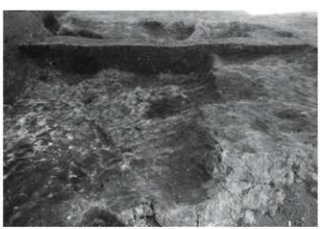
図版 6

①１号溝完掘（北側から）

②３号溝完掘（西側から）

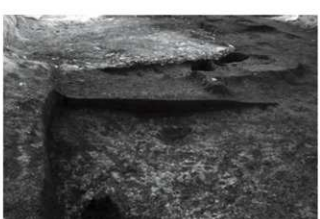
③２号竪穴状遺構完掘（南側から）

④２号溝最東部分完掘（東側から）

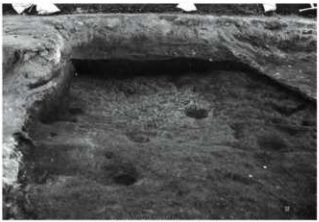


⑥２号竪穴状遺構南北土層断面（東側から）

⑤３号溝東壁土層断面（西側から）

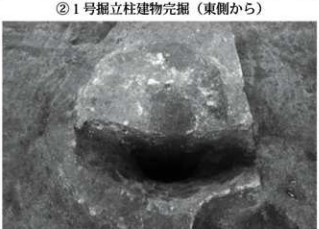


⑦１号竪穴状遺構土層断面（東側から）

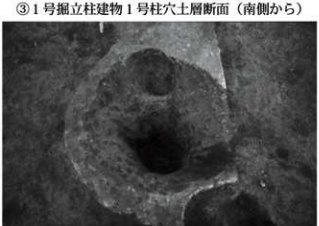


①１号竪穴状遺構完掘（北側から）

②１号掘立柱建物完掘（東側から）

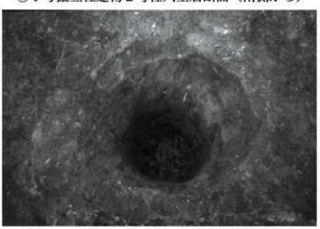


③１号掘立柱建物１号柱穴土層断面（南側から）



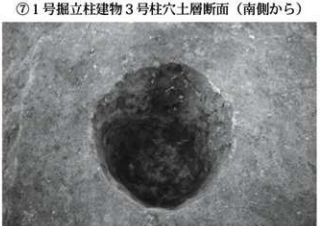
④１号掘立柱建物１号柱穴完掘（南側から）

⑤１号掘立柱建物２号柱穴土層断面（南側から）

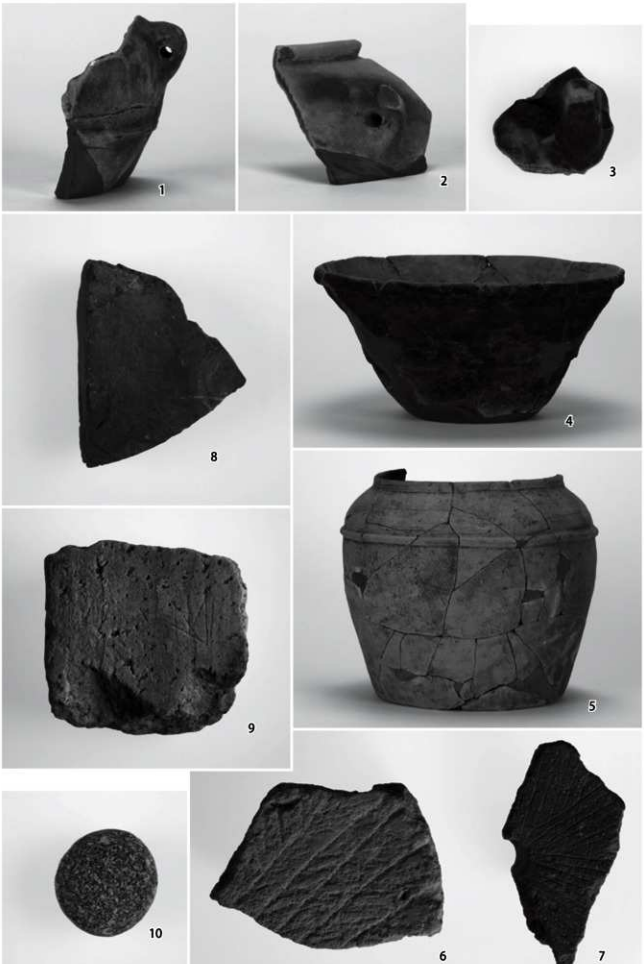


⑥１号掘立柱建物２号柱穴完掘（南側から）

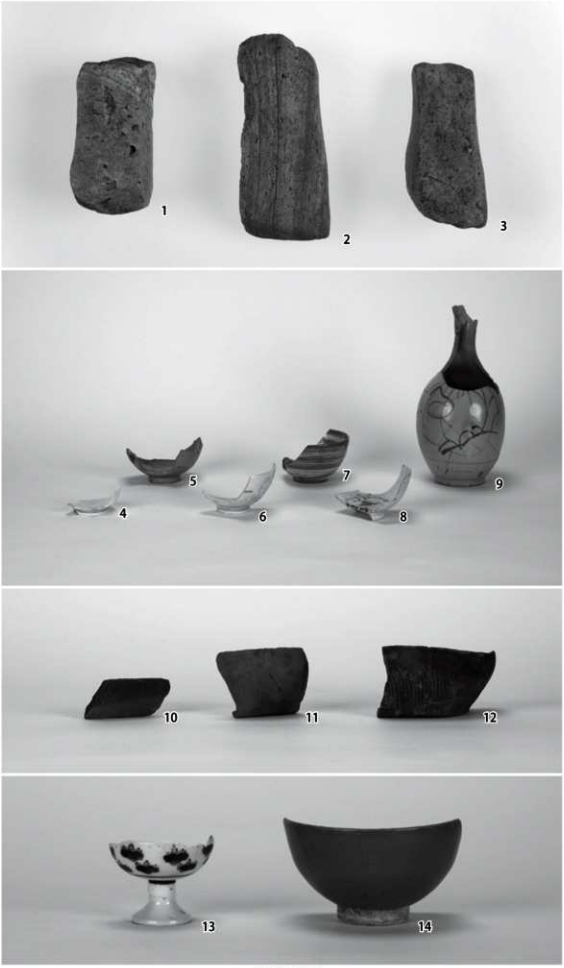
⑦１号掘立柱建物３号柱穴土層断面（南側から）



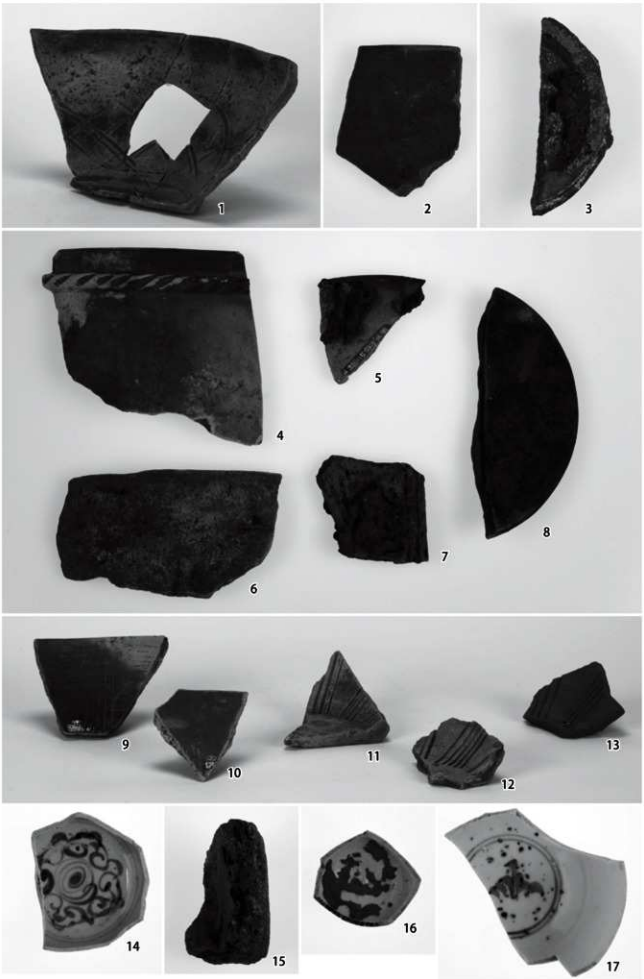
⑧１号掘立柱建物３号柱穴完掘（南側から）



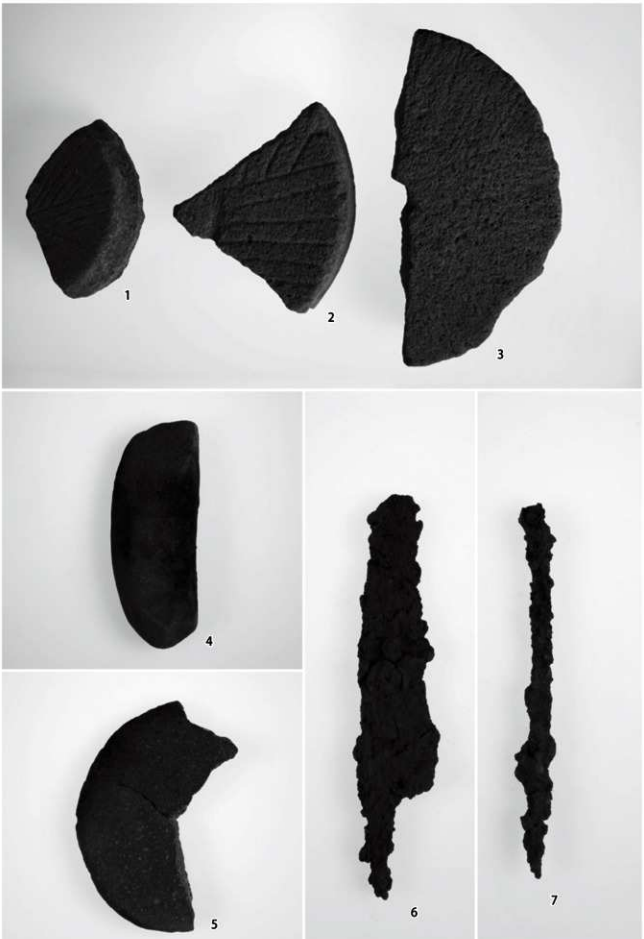
出土遺物①



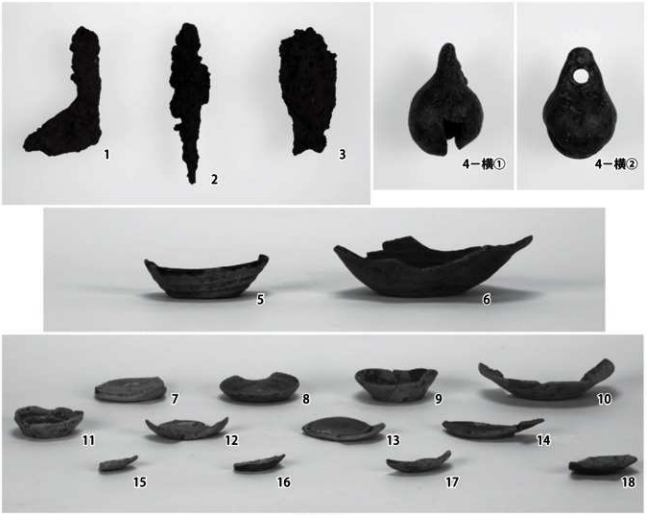
出土遺物②



出土遺物③



出土遺物④



出土遺物⑤

報告書抄録

ふりがな	みくにしょうがっこういせき
書名	三国小学校遺跡５
副書名	福岡県小郡市力武所在遺跡の調査報告
巻次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第３１１集
編著者名	西江　幸子
編集機関	小郡市教育委員会
所在位置	〒838-0198　福岡県小郡市小郡255－1　℡0942－72－2111
発行年月日	平成29年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
三国小学校遺跡５（みくにしょうがっこういせき）	福岡県（ふくおかけん）小郡市（おごおりし）力武（りきたけ）	40216		33°25′23″	130°33′53″	2015.9.28～2015.11.27	245㎡	校舎新設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三国小学校遺跡５	集落	中世 江戸時代	土坑 溝 竪穴状遺構 石組み遺構 ピット	土師器、須恵質土器 磁器、陶器 土製品、石製品、鉄器	

要約

今回の調査では、江戸時代前期に比定できる石組み炉を検出した。炉内から出土した鉄滓や鉄分の付着状況より、小鍛冶炉として機能していた可能性が想定される。本調査地より東へ約200mの所には、横隈宿と江戸時代前期において主要街道であった旧筑前街道が通っており、大変な賑わいであったと考えられる。

小郡市内において、江戸時代に相当する遺跡の調査事例は少ないことから、今後の発掘調査成果の蓄積により、当時の人々の暮らしを復元することが、今後の課題と言えよう。

三国小学校遺跡５

小郡市埋蔵文化財調査報告書第311集
平成29年3月31日

発行　小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡255－1
印刷　株式会社チューエツ
福岡市博多区東比恵2－9－1